

## セルゲイ・ボルトキエヴィチ（1877 - 1952）の自筆書簡の概要および所蔵一覧

著者	石岡 千弘
ページ	1-36
発行年	2017-10
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1300/00001145/">http://id.nii.ac.jp/1300/00001145/</a>

2017年10月作成

# セルゲイ・ボルトキエヴィチ（1877-1952） の自筆書簡の概要および所蔵一覧

The Complete Catalog and Outlines of Sergei  
Bortkiewicz's hand-written letters (1877-1952)

石岡 千弘

Chihiro Ishioka

## 【目次】

### 凡例

<b>第1章</b>	NMI .....	1
第1節	ヒューゴ・ファン・ダーレン Hugo van Dalen (1888-1967) .....	1
第2節	ヘレーネ・マルホランド Hélène Mulholland (1912-2000) .....	27
第3節	その他 .....	29
<b>第2章</b>	ウィーン市立図書館 .....	29
<b>第3章</b>	オーストリア国立図書館 .....	31
第1節	ヨーゼフ・マルクス Joseph Marx (1882-1964) .....	32
第2節	カール＝フランツ・ミュラー Karl-Franz Müller (1922-1978) .....	32
第3節	エミール・ペチュニヒ Emil Petschnig (1877-1939) .....	33
第4節	その他 .....	33
<b>第4章</b>	ザクセン州立アルヒーフ .....	33
<b>第5章</b>	ケルン大学図書館 .....	35
<b>第6章</b>	フライシャー・コレクション .....	35

## 凡例

本稿は、筆者による博士論文『セルゲイ・ボルトキエヴィチ研究－自筆資料に基づく生涯・音楽観・ピアノ作品の考察－』第Ⅰ部の第Ⅱ章第Ⅱ節を再編したものである。

本稿においてボルトキエヴィチの書簡を引用する際には、以下の書式にて出典を示すこととする。なお、ボルトキエヴィチの自筆資料を引用する際は、出典を参照する際の簡便性を考慮し、ボルトキエヴィチの名前をキリル文字ではなく、アルファベットで記載する。

1. ボルトキエヴィチからファン・ダーレンに宛てた書簡は、〔Bortkiewicz 年/月/日〕と記載する。
2. ボルトキエヴィチからマルホランドに宛てた書簡は、〔Bortkiewicz-M 年/月/日〕と記載する。

また、自筆資料を所蔵する図書館名の原綴は以下の通り。

第 1 章 NMI Nederlands Muziek Instituut

第 2 章 ウィーン市立図書館 Wienbibliothek im Rathaus

第 3 章 オーストリア国立図書館 Österreichischen Nationalbibliothek

第 4 章 ザクセン州立アルヒーフ Sächsisches Staatsarchiv

第 5 章 ケルン大学図書館 Universitäts- und Stadtbibliothek Köln

第 6 章 フライシャー・コレクション Fleisher Collectio

本稿では、ハーグのネーデルラント・ムジーク・インスティテュート<sup>1</sup> Nederlands Muziek Instituut（以下、NMI）やウィーン市立図書館、オーストリア国立図書館、ザクセン州立アルヒーフ、ケルン大学図書館、フライシャー・コレクションに所蔵されている書簡および書類の明細を所蔵先ごとに整理する。それぞれの書簡について、日付、発信地、形態、頁数、概要、所蔵先コードを一覧化する。日付についてはボルトキエヴィチの記載した日付を優先し、記載がないものについては郵便の消印の日付を採用した。郵便の消印もないか不鮮明なものは「n. d.」とした。頁数については封書の本文の枚数のみカウントし、葉書についてはカウントせず「-」と記載した。また、受取人別に通番を付した。

なお、本稿で取り上げる書簡はボルトキエヴィチが発信したものであり、ボルトキエヴィチが受領した書簡については所在が確認できなかった。その背景には、ボルトキエヴィチ夫妻に子供いなかったことや、第2次大戦後、妻のエリザヴェータが酷い双極性障害を患ったため、彼の死後、手紙を整理し保管する人物がいなかったこと、また、何回も居住地を追われ、その都度持ち物を手放さざるを得なかったことなどの理由があったと推測される。ボルトキエヴィチは基本的にドイツ語で書簡を認めている。しかし、一部の書簡はフランス語または英語で書かれており、それらについては表中の概要欄に言語を示した。

## 第1章 NMI

NMIには、オランダのハーグに居を構えていたピアニストのヒューゴ・ファン・ダーレンと、その弟子であるヘレーネ・マルホランドに対してボルトキエヴィチが送った書簡が所蔵されている。

### 第1節 ヒューゴ・ファン・ダーレン Hugo van Dalen（1888-1967）

ファン・ダーレンはベルリンでボルトキエヴィチに出会い、終生の友人となった。NMIには、ボルトキエヴィチが1910年から1952年にかけてファン・ダーレンに送った書簡271通が下表のとおり保管されている。これらの書簡はすべて、ボルトキエヴィチのアーカイブではなく、ファン・ダーレンのアーカイブ「MNHGM 040」に所蔵されている。書簡は期間ごとに区切られた13のファイルに分けて所蔵されており、それぞれの書簡に対して所

---

<sup>1</sup> オランダの音楽文化遺産の保存を目的とする中央機関で、ハーグ市 Den Haag に所在。数千に及ぶ自筆譜や書簡、その他の資料が保管されている。

蔵先コードは付されていないため、下表ではそのファイルごとに表を作成して全書簡を一覧化した。なお、書簡の中で曲名に言及がある場合、簡潔さの観点から表中ではこれを作品番号で記述した。

### (1) 1910年-1920年 (10通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
1	1910/12/10	ベルリン	葉書	-	ロシアに帰郷することの連絡／Op. 13 をダーレンに送付。Op. 15 を作曲中と言及
2	1911/2/7	ベルリン	封書	4	作曲中の Op. 15 について曲の構成、拍子、難易度等に言及。コンサートでの演奏に適していると述べる／子供向けの作品を書く意思を伝える
3	1911/2/26	ベルリン	封書	3	ダーレンにベルリンでの就職先について紹介
4	1911/4/11	ベルリン	葉書	-	ダーレンの就職について／Op. 15 は未出版で、ダーレンへ送付すると言及
5	1911/5/14	ベルリン	葉書	-	Opp. 14、15 を同時にラーター社から出版すると報告／Op. 14 をオランダのピアノ教師や教育者に勧めしてほしいと依頼
6	1911/8/5	ヴィアレージョ	葉書	-	滞在先（伊）からの近況報告
7	1911/9/25	ベルリン	葉書	-	ダーレンへの近況伺い
8	1911/12/29	ベルリン	葉書	-	新年の挨拶
9	1912/6/30	ベルリン	葉書	-	事務連絡
10	1914/5/12	ベルリン	葉書	-	Op. 16 の返送を要求

### (2) 1921年-1925年 (24通)

1923年2月22日の書簡以降、ダーレンを指す人称が「あなた Sie」から「君 Du」に変化しており、ボルトキエヴィチとダーレンの関係性が親密になってきていることが窺える。一方、ダーレンがボルトキエヴィチを書簡の中でどう呼んでいたかは、ダーレンからの書簡が1通<sup>2</sup>を除き現存していないため不明である。

<sup>2</sup> ボルトキエヴィチがダーレンから受領した書簡を筆写しダーレンに送った。この書簡は、ボルトキエヴィチへの貸金の返済方法を記載した内容だったためか、ダーレンはボルトキエヴィチに対し「あなた Sie」を用いている [Bortkiewicz 1932/12/24]。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
11	1921/8/18	コンスタンティノーブル	封書	6	第1次大戦とロシア革命、コンスタンティノーブルへの亡命までの状況を報告／ベンジャミン社と Opp. 20、21、22、24 の出版交渉中。Op. 19 の評判を尋ねる。Op. 18 のオーケストラ版を書いた。スコアとパート譜をキストナー&ジーゲル社から出版予定
12	1921/9/15	コンスタンティノーブル	封書	4	Op. 19 の楽器編成と演奏法について
13	1922/5/22	コンスタンティノーブル	封書	2	Opp. 20、21、24 の完成稿がまだ届かない／夏はウィーン近郊で過ごし、そこで秋以降の居住地をウィーンかプラハに決定する／チェロの小品3曲〔i.e. Op. 25〕を数年以内に書く意思を伝える
14	1922/8/7	メードリング・バイ・ウィーン	封書	2	ウィーン到着の報告／11月末ウィーンでの演奏会の案内／ベンジャミン社が Opp. 20、24 をダーレンに送付したと報告
15	1923/1/17	バーデン・バイ・ウィーン	封書	2	ヴァイオリニスト、フランク・シュミットと 1923 年 1 月 29 日、2 月 6 日にベルリンで演奏会を行う
16	1923/2/22 <sup>3</sup>	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	近況報告／Op. 28 を作曲中と言及
17	1923/3/4	バーデン・バイ・ウィーン	封書	2	出版社が、ボルトキエヴィチ自身の「芸術的信条」を載せた作品カタログを近日中に発行予定と言及。Op. 29 の前半6曲を作曲し、楽譜を送付
18	1923/6/24	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	Op. 29 の構成について。エチュード12曲を6曲ずつ Opp. 29、30 とすることも考えたが、最終的に Op. 29 として2巻より構成／Op. 28 の初演について／Op. 27 を作曲した
19	1923/11/24	ウィーン	封書	2	ピアノ協奏曲-左手のための幻想曲-[i.e. Op. 28] の初演が 11 月 29 日ウィーンで決定／Opp. 25、26、27、29 をラーター社に託す
20	1923/12/24	ウィーン	封書	2	Op. 28 の初演が成功／Op. 29-5、12 を作曲中／オペラを作曲中
21	1924/3/10	ウィーン	封書	2	夫婦で体調が悪いことの報告。健康は損ねると特にそのありがたみが分かる／Op. 29 のエチュード全12曲をダーレンに献呈
22	1924/4/1	ウィーン	葉書	-	Op. 29 の校正をライブツィヒ〔i.e. ラーター社〕に送付
23	1924/6/10	ウィーン	葉書	-	近況報告／ウィーンでの Opp. 27、29 の楽譜販売が好調
24	1924/7/4	シュトルーデン	葉書	-	滞在先からの近況伺い
25	1925/2/26 <sup>4</sup>	ウィーン	葉書	-	Op. 32 を書き終えた／構成と編成などの詳細を通知
26	1925/4/21	ウィーン	葉書	-	Op. 32 のコピーをダーレンのために注文／5月10日にヴィットゲンシュタインがパリで Op. 28 をハーグの指揮者と演奏

<sup>3</sup> ボルトキエヴィチが本文に記載した年月日は、21年か23年か判別しづらかった。NMIはこの書簡を1921年のものとして整理しているが、バーデンから投函されたのに対し、1921年にはボルトキエヴィチはオーストリアに入国していなかったことから、正しくは1923年の書簡だと考えられる。

<sup>4</sup> ボルトキエヴィチが本文に記載した年月日は、25年か28年か判別しづらかった。NMIはこの書簡を1928年のものとして整理しているが、Op. 32は1927年に初演されているため、1925年の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所(2)の表中に記載した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
27	1925/6/17	ウィーン	葉書	-	10月30日にマドリッドで初めての演奏会を開催／同時期にパリで Op. 32 を弾いて欲しいとダーレンに依頼
28	1925/7/15	ウィーン	葉書	-	Op. 32 のコピーの件はまだ返事が来ない／今日旅に出ることを通知
29	1925/9/21	ウィーン	葉書	-	11月にパリで Op. 32 を弾いて欲しいとダーレンに再度依頼。日程が決まり次第、至急スコアとパート譜を送付する
30	1925/10/12	ウィーン	封書	2	Op. 32 のスコアをダーレンに送付。近日中にパート譜も送付予定。スコアは1部のみのため紛失しないよう頼む／10月26日にマドリッドへ出発し、11月にパリに行く／ハーグで Op. 32 を2台ピアノ版と一緒に弾かないか打診／Op. 33 を印刷中
31	1925/10/22 <sup>5</sup>	ウィーン	葉書	-	1月にハーグで Op. 32 を2台ピアノ版と一緒に弾くことを依頼／再度、スコアを紛失しないよう依頼
32	1925/11/21	パリ	葉書	-	明日の朝ウィーンへ戻ることを報告
33	1925/12/3	ウィーン	葉書	-	ハーグにおけるダーレンとのコンサートの日程の打診
34	1925/12/22	ウィーン	葉書	-	1926年1月28日のコンサートの開催有無を確認／改めて、スコアを紛失しないよう依頼

### (3) 1926年-1930年 (44通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
35	1926/2/15	ウィーン	葉書	-	4月10日にダーレンとのコンサートのためハーグに行く予定／Op. 33 はラーター社から出版された／Opp. 20、28 を最近指揮した。Op. 20 の譜面を無くさないよう依頼
36	1926/2/28	ウィーン	封書	2	4月10日のダーレンによる「ボルトキエヴィチのタペ」のプログラムをベンジャミン社から受領／近況報告
37	1926/3/18	ウィーン	封書	1	ダーレンとの Op. 32 の2台ピアノ版のコンサートを、4月24日にハーグで開催することが確定／シュミットが Op. 22 をアテネで演奏した
38	1926/3/30	ウィーン	葉書	-	近況報告／コンサートの曲順について
39	1926/4/8 <sup>6</sup>	ウィーン	葉書	-	オーストリア市民権を取得してしばらく経過／オーストリアのパスポートを持っている／4月22日午前11時に到着する
40	1926/9/19	パリ	葉書	-	滞在先からの近況報告
41	1926/12/9	ウィーン	葉書	-	近況報告

<sup>5</sup> NMIはこの書簡を誤って1935年のものとして整理しているが、ボルトキエヴィチが記載した日付から明らかに1925年の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所(2)の表中に記載した。

<sup>6</sup> ボルトキエヴィチが本文に記載した年月日は、21年か26年か判別しづらかった。NMIはこの書簡を1921年のものとして整理しているが、1922年以降に居住したウィーンから投函されているため、1926年の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所(3)の表中に記載した。



	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
42	1927/1/19 <sup>7</sup>	ウィーン	葉書	-	2月11日の「ラジオ・ベルリン」での演奏の告知／ベルリンにおける滞在先の住所
43	1927/6/6	ウィーン	封書	3	ウィーンでボルトキエヴィチ指揮による Op. 32 の初演が大成功／経済的に困難で作曲活動にも悪影響が出ていて苦痛だ／コンサートでゆっくりの曲を続けて演奏するのは良くない。変化が必要だ。
44	1927/8/8	ラウラーナ	葉書	-	避暑地（現クロアチア）からの近況報告
45	1927/10/3	ウィーン	葉書	-	「ラジオ・ミュンヘン」で Op. 32 を演奏する予定／ピアノ・トリオ Op. 38 を書き終えた
46	1927/12/20	ウィーン	葉書	-	クリスマスと新年の挨拶
47	1928/5/10	ウィーン	封書	4	ウィーンで指揮者として好評を博している／ラーター社から Op. 37 のピアノ版を出版。オーケストラ版も続けて出版予定
48	1928/9/10	ウィーン	封書	2	9月23日夕方に「ラジオ・ウィーン」で Op. 36 を演奏する／ワルシャワで1月に Op. 32 を演奏する／Op. 40 の作曲は完了したが、未出版
49	1928/12/22	ウィーン	葉書	-	1929年1月25日にワルシャワで Op. 32 を演奏し、Op. 37 を指揮する／1月28日に「ラジオ・ベルリン」でピアノ作品を演奏し、イギリス大使館でも弾く
50	1929/1/20	ベルリン	封書	4	ベルリンで開催した演奏会で、Op. 36 が大変好評だった／1月はベルリンで、Op. 28 など幾つかのコンサートを予定しているが、それでも経済的には苦しい
51	1929/4/14	ベルリン	葉書	-	Op. 37 をはじめ、自分の作品の宣伝のための機会をベルリンやベルリン以外で探している
52	1929/6/14	ベルリン	葉書	-	6月18日に Opp. 26、36 や4つのピアノ小品 <sup>8</sup> をライブツィヒのラジオで演奏する
53	1929/8/13	ベルリン	葉書	-	Op. 42 を作曲した／Op. 40 は未だ出版されていない
54	1929/9/14	ベルリン	封書	2	ダーレンがオランダで出版した『ロシアの音楽と作曲家』に自分を取り上げてくれたことへの礼／出版社 J. フィリップ・クルーゼマンへの祝い状を同封／経済的に苦しいことの愚痴
55	1929/10/7	ベルリン	葉書	-	ダーレンの演奏を聴く機会が無くて残念だ！／定職が無く、収入が不安定だ！
56	1929/10/29	ベルリン	封書	4	経済的困窮の訴え／リガから戻る途中、ダンツィヒでマルツィンスキ伯爵夫人の館に招待され、ロシアの地主としての生活を思い出した／Op. 19 が12月に演奏される予定／12月にバヴァリアのラジオに出演予定
57	1929/11/3	ベルリン	封書	2	近況報告／定職への憧れ
58	1929/11/14	ベルリン	封書	3	ダーレンがオランダの音楽院での教職の口を紹介しようとしてくれたことへの礼／ダーレンが12月8日にハーレムで Op. 32 を演奏する予定だと、ラーター社から聞いた

<sup>7</sup> ボルトキエヴィチが本文に記載した年月日は、21年か27年か判別しづらかった。NMIはこの書簡を1921年のものとして整理しているが、1922年以降に居住したウィーンから投函されているため、1927年の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所（（3））の表中に記載した。

<sup>8</sup> 「4つのピアノ小品」がどの作品を指すか特定できなかった。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
59	1929/12/11	ベルリン	葉書	-	ダーレンの Op. 32 のハーレムでの演奏が成功したと聞いた／職についてダーレンからの知らせを引き続き待っている
60	1929/12/12	ベルリン	葉書	-	近況報告
61	1929/12/21 <sup>9</sup>	ベルリン	葉書	-	1930年1月3日に「ラジオ・ライブツィヒ」でヴィトゲンシュタインが Op. 28 を演奏予定／経済的困窮の訴え
62	1930/2/1	ベルリン	封書	4	1月26日にヴィトゲンシュタインが Op. 28 を演奏し好評だった／AKM から4月に入金予定の著作権料見合いで、ダーレンに300ライヒス・マルクの借用を打診
63	1930/2/7	ベルリン	封書	2	255 ライヒス・マルクを送金してくれたことへの礼／借用証を送付／オランダでの職の紹介が難しいと聞いたが何故か教えてほしい
64	1930/2/14	ベルリン	封書	2	Op. 39 のタイトルを決定したことを伝達
65	1930/2/24	ベルリン	葉書	-	近況報告
66	1930/3/23	ベルリン	葉書	-	Op. 39 を出版してくれる出版社が見つからないのなら、託した楽譜を返送して欲しいと依頼
67	1930/4/10	ベルリン	葉書	-	オランダの出版社が Op. 39 に興味を示さないのなら、託した楽譜を返送するようダーレンに依頼
68	1930/4/28	ベルリン	葉書	-	Op. 39 に興味を示す出版社を自分で見つけたので、すぐに楽譜を送り返して欲しいと依頼
69	1930/6/17 <sup>10</sup>	ベルリン	葉書	-	6月19日にダーレンが Op. 16 を弾くと聞いて嬉しい／Op. 39 をリトルフ社から出版することが決まった／Op. 45 を作曲した
70	1930/6/27	エーバースヴァルデ	封書	2	ハーグ在住で「ブダペスト・トリオ」のメンバーのニコラス・ロスへの手紙を Op. 38 と一緒に同封するので、彼に手渡してほしい
71	1930/7/13	ベルリン	封書	3	ダーレンが出したチャイコフスキに関する本と、自分の伝記を送ってくれたことへの礼と、ダーレンが作品を自分に献呈してくれたことへの礼
72	1930/8/20	ベルリン	葉書	-	Opp. 31、37 の送付に関し、お互いの理解に齟齬があったため状況を確認
73	1930/8/27	ベルリン	封書	2	Opp. 31、37 のオーケストラのパート譜と、Opp. 31、45 (2台ピアノ版) のスコアを送付する／Op. 37 のスコアはラーター社から送らせる／私は「小さなチャイコフスキ」／Op. 19 の演奏ガイドを送付するので指揮者のヴァイスバッハに渡してほしい
74	1930/9/22	ベルリン	封書	3	10月にベルリンで演奏するため Op. 37 の譜面を返送するよう依頼／「ブダペスト・トリオ」のロスからは連絡がない／Op. 45 を5月のトンキュンストラフェストのために提出した
75	1930/10/15	ベルリン	封書	2	Op. 45 の変更箇所を同封／10月14日のコンサートで Op. 16 が大成功を取めた／ロスとヴァイスバッハから連絡がない

<sup>9</sup> NMI はこの書簡を10月のものとして整理しているが、ボルトキエヴィチ自身の日付の記載から正しくは12月の書簡だと考えられる。

<sup>10</sup> NMI はこの書簡を1920年6月14日のものとして整理しているが、ボルトキエヴィチ自身の日付の記載から1930年6月17日の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所(3)の表中に記載した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
76	1930/10/28	ベルリン	葉書	-	Op. 37 のオーケストラのパート譜が未着／Op. 37-9 の〈お祭り騒ぎ〉は最後に演奏すべき [i.e. 10 曲目に曲順を変更]
77	1930/11/26	ベルリン	封書	3	Op. 37 の批評を送ってくれた感謝／5 曲しか演奏しなかったのが印象が弱まって残念だった／例えば Op. 37-6、8、10 は優秀なソロ・ヴァイオリンが必要だ
78	1930/12/12	ベルリン	封書	3	255 ライヒス・マルクの返済を待ってほしい／Op. 45 の 2 台ピアノ版の編曲を近日中に送付する／Op. 37 の曲順は 1、2、3、4、10、5、6、(7)、8、9 を勧める

#### (4) 1931 年-1932 年 (24 通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
79	1931/1/6	ベルリン	葉書	-	ベルリン国立歌劇場のバレエ・ディレクターに Op. 37 の音楽や構想を見せたいので、カペルマイスターにスコアを返送してもらえないか聞いて欲しいとダーレンに依頼
80	1931/2/14	ベルリン	葉書	-	2 月 5 日に行った Op. 32 のベルリン初演が驚くほどの大成功を収めた／「ブダペスト・トリオ」のロスに返事をするよう、ダーレンから強く申し入れて欲しいと依頼
81	1931/3/24	ベルリン	封書	3	先日ベルリンのピアニスト、ヘルマン・ホッペが Op. 42 を初演し、小品 4 曲を素晴らしいテクニックで演奏した／「ブダペスト・トリオ」がベルリンでコンサートを行い、ロスと会話した／Op. 45 について、難易度や演奏する意思の有無を尋ねる
82	1931/4/14	ベルリン	葉書	-	ダーレンへの近況伺い
83	1931/6/5	ベルリン	葉書	-	6 月 9 日にチャップ女史が Op. 17-1、Op. 33-6、9、Op. 3-3 を演奏する
84	1931/7/28	エーバースヴァルデ	封書	4	ダーレンが 8 月 9 日にスヘーフェニンゲン <sup>11</sup> で Op. 32 を演奏すると知って嬉しい／9 月 27 日にはプラハで Op. 16 を演奏予定／経済的困窮と体調不良の訴え／Op. 46、〈アルバムの一葉〉、〈祝婚歌〉を作曲した／Opp. 40、42 は間もなくリトルフ社から出版予定
85	1931/8/25	ベルリン	葉書	-	Op. 32 のダーレンの演奏が大成功だったことへの礼／Opp. 40、42 は間もなくリトルフ社から出版予定
86	1931/9/7	ベルリン	葉書	-	Op. 16 のスコアをできるだけ早く私に送って欲しいとダーレンに依頼
87	1931/9/18	ベルリン	葉書	-	9 月 25 日にヴロツワフで行う自分の演奏を聴けるかダーレンに尋ねる。28 日にはプラハでも演奏予定
88	1931/10/7	ベルリン	封書	3	ヴロツワフとプラハで行った演奏旅行の報告。10 月 11 日にケーニヒスベルクで 30 分間、14 日にはリガで 1 時間ピアノ小品を演奏予定／ダーレンが購入を検討しているピアノ (フリーゲル) についての情報を連絡
89	1931/10/17	リガ	葉書	-	ケーニヒスベルクからリガでの自分の演奏を聴けたかダーレンに尋ねる／滞在先からの近況報告

<sup>11</sup> デン・ハーグの中心部から約 6 キロ北西の、北海に面した地区。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
90	1931/11/8	ベルリン	葉書	-	ダーレンが 1930 年から 31 年にかけてボルトキエヴィチの作品を演奏した全てのコンサートの記録を、詳細な日付とともに書き付けた目録 <sup>12</sup> に対する礼
91	1931/12/11	ベルリン	封書	2	Op. 19 のベルリン初演と、優秀なピアニスト、ヘルマン・ホッペが Op. 45 を初演したシンフォニー・コンサートのプログラムを同封/12 月 20 日にウィーンで Op. 16 を、22 日にミュンヘンのラジオ局でピアノ小品を演奏予定/演奏機会に恵まれているが収入は限られている/今は南アメリカを夢見ている/最近、ピアニストのテランがリオデジャネイロで Op. 16 を演奏した <sup>13</sup>
92	1931/12/31	ベルリン	葉書	-	新年の挨拶
93	1932/2/25	ベルリン	封書	4	ピアニストのテランが、聴衆の希望で、リオデジャネイロの次のコンサートで Op. 16 を再演することになった/例えば Op. 20 などはチェリストのパウルが 20 回も演奏した/Op. 44 はまだ自筆譜で、演奏はされていない/2 月 4 日にリトルフ社主催のコンサートで Opp. 39、40、42 を演奏した/夏には Opp. 46、48 をリトルフ社から出版予定/これらの謝礼金では十分な生活ができない/いまオペラを書いている。この作品が成功すれば経済的には死ぬまで安泰だ。しかし心配事や暗い考えのせいで作曲が捗らない。このオペラが成功しなければ、自分も死んでしまうかもしれない
94	1932/3/25	ベルリン	封書	2	Op. 46 の自筆譜のコピーをダーレンに送付/昨日オペラの第 2 幕を書き終えた
95	1932/6/20	ベルリン	封書	2	この夏は街に留まる予定だ/オペラのスコアをすでに 250 ページ書いた/ダーレンの知り合いで、自分を尊敬し経済的にサポートしたいという裕福な女性に興味を持っている
96	1932/7/3	ベルリン	封書	4	Op. 45 のスコアと Op. 37 のパート譜をダーレンに送付/オペラのリブレットはヘルマン・バングの小説『4 人の悪魔』がもとになっている。オペラを早く仕上げるために、裕福な女性 <sup>14</sup> から 3000 グルデン貸してもらえないか交渉するようダーレンに依頼
97	1932/7/25	ベルリン	葉書	-	ダーレンから良い知らせ <sup>15</sup> があるか尋ねる/自分は疲労困憊だ。お金がないので近くの田舎への安い旅行にも行けない。それにも関わらずオペラを仕上げなければならない
98	1932/8/24	ベルリン	葉書	-	ダーレンから長い間連絡がない/オペラを《アクロバーテン》と名付けることを報告。夏の間中作曲に取り組み、間もなく完成
99	1932/9/14	ベルリン	封書	3	オペラは当初《4 人の悪魔》というタイトルだったが、最終的に《アクロバーテン》の方が格段に良く、作品の世界を言い表していると考えた/自分が死んでも印税はまだ 30 年あり十分に保障されている

<sup>12</sup> この時期の目録は未発見だが、1910 年 11 月 20 日から 1926 年 12 月 21 日までの記録は NMI に所蔵されている (NMI 368)。

<sup>13</sup> テランはモンテビデオでも Op. 16 を演奏し大成功を収めた様子を、ニューヨーク・タイムズが報じている (著者不明 1931 "Music Brevities from Abroad." *New York Times* 27, December)。

<sup>14</sup> 1932 年 6 月 20 日の手紙で言及。

<sup>15</sup> 裕福な女性からの援助を指すと考えられる。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
100	1932/10/18	ベルリン	封書	2	6月まで持ちこたえるには至急 2000 マルクが必要だ。でなければ餓死するか自殺しなければならないだろう。でも何とか夏までには、この惨めな状況が好転するという望みを持って暮らしたい。ダーレンに助けてほしい！自分が死んでも印税は 30 年あるし、自分の作品は失われなければならないはずだ
101	1932/12/10	ベルリン	封書	3	自分はダーレンに 2000 マルク借りがあるが、どのように返済すべきかについて、ダーレンから書面で教えてほしい／オペラの作曲を進めている。オペラは成功しなければならない。私の最後の望みだ！
102	1932/12/24	ベルリン	封書	1	ダーレンから 2000 ライヒス・マルクの借金について少なくとも毎月返済をして欲しいとの依頼 [i.e. ダーレンからの書簡をボルトキエヴィチが筆写して同封] /ダーレンが自分を心配してくれていることへの礼／クリスマスと新年の挨拶

( 5 ) 1933 年-1934 年 ( 24 通 )

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
103	1933/2/8	ベルリン	葉書	-	ベルリンで Op. 7-1、Op. 8-3、Op. 17-8、Op. 48-1、2、5、6 を演奏した／2 月 19 日に「ラジオ・ウィーン」で 30 分間演奏予定／戦争と人間の愚行が呪わしい！南アメリカ（ブラジル）に行くための金も無い
104	1933/3/14	ベルリン	葉書	-	「国会議事堂放火事件とナチスによる共産主義弾圧を踏まえて」我々はドイツで、完全に威圧的な新時代に直面している。大勢の共産主義者、ユダヤ人、「現代主義者」が逃げ出している
105	1933/4/21	ベルリン	封書	4	サイン入りのプロマイドをダーレンに送付。ボルトキエヴィチの賞賛者に渡して、代わりにお金を集めてボルトキエヴィチに送って欲しいと依頼／ヒトラー革命の後、オペラのプロデューサーやオーケストラのディレクターが殆ど餓になってしまった。オペラについて一から交渉仕直しになった／AKM からのロイヤリティの入金は 6 月末頃の予定で、それまでに資金が尽きるだろう。私の「賞賛者」からお金を集めて 300 から 400 ライヒス・マルクほど送ってもらえないか／かわいいそうな妻がもしいなければ、随分前に自分の人生を終わらせていただろう／ブラジルでは評価されている／ユダヤ人でもなく、ドイツで名声を得ているにもかかわらず、生粋のドイツ人ではないことを理由にポストが手に入りにくくなっている
106	1933/4/29	ベルリン	封書	2	現状の報告／ミース婦人にお金を貸して欲しいとダーレンから頼んでもらうよう依頼。ミース婦人がベルリンに到着したら自分に連絡できるよう、ダーレンに連絡先を伝達
107	1933/5/22	ベルリン	葉書	-	Op. 45 のすべての弦楽器を含めたオーケストラのパート譜の多くをダーレンが持っているか照会／ミース婦人にお金を送付してもらおうようダーレンに依頼したが、その後君から返事がない
108	1933/5/30	ベルリン	封書	2	50 ライヒス・マルクの受領に感謝。同封の手紙をミース婦人に転送して欲しいと依頼。ミース婦人にベルリンで直接会えることを望んでいる／昨日 Op. 50 のピアノ編曲をプラハのドイツ劇場に送付した。台本はそれ以前に送付しており、今回編曲を要求された

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
109	1933/7/3	ベルリン	封書	3	生活の困窮の訴え。10月までは持ちこたえなければならぬ／革命、ポリシェヴィキ、生命の危機に耐えていることへの嘆き
110	1933/7/30	ベルリン	封書	3	ミース婦人からの 30 マルクに対する礼。〔合計〕 80 マルクの受領証を送付すべきか照会／オペラでは、合唱は短く断続的だが全 3 幕に存在する。第 2 幕ではセレナーデとしてバリトン独唱が繰り返して出てくる。その他、場面の展開について説明
111	1933/8/23	ベルリン	封書	4	近況報告／リオデジャネイロから長い新聞記事が送られてきた。新聞は私の宣伝活動を盛大にしてくれるが、現地に行く金も無い。ブラジルのピアニストが、私のピアノ協奏曲の楽譜をライプツィヒから入手するのは、外貨管理規制が厳しいために非常に困難だと書いてきた／お金が入って借金を返済できたらどんなに嬉しいだろう
112	1933/9/22	ベルリン	葉書	-	ダーレンへの近況伺い
113	1933/10/9	ベルリン	封書	1	ミース婦人からの 30 ライヒス・マルクに対する礼／10月の終わりにドイツのラジオ局で一連のピアノ小品を演奏する
114	1933/12/23	ウィーン	封書	4	ベルリンの「ドイチュラントゼンダー」〔i. e. ラジオ局〕で 11 月 1 日に演奏予定だったが急遽キャンセルされた。恐らく自分がドイツ人ではないからだ。腹が立って仕方がない。この話をジャーナリストの友人に伝えて欲しい／ベルリンでオペラの話が進んでいたが、ディレクターがユダヤ人のため追放されたことから、振り出しに戻ってしまった／ウィーンの国立歌劇場のディレクターのワレンシュタイン氏が Op. 50 に興味を示してくれている／ウィーンはとても貧しいが、それでも素晴らしい！
115	1934/1/24	ウィーン	葉書	-	ミース婦人に心からよろしく伝えるようダーレンに依頼／2月2日と10日に「ラジオ・ウィーン」で演奏予定／日々の生活における苦闘はより深刻で疲労困憊しており、全く作曲ができていない
116	1934/3/6	ウィーン	封書	2	57 歳になったが、かつてのロシアが続いていたならどれ程か人生が違っていたことか。時代が変わったせいで、この歳になっても自分の作品が有名になりきらず報われていない。自分がまだ生きているのは奇跡だ！／ダーレンが自分の作品を多く演奏していることへの礼／ミース婦人に同封の手紙と自筆譜 <sup>16</sup> を渡すようダーレンに依頼／3月10日に3台ピアノの「ベルリナー・トリオ」が、Op. 3-3、Op. 24-2、Op. 48 の編曲 4 曲をラジオ局で演奏する
117	1934/3/24	ウィーン	葉書	-	ミース婦人に献呈した《ピアノのための前奏曲》の自筆譜と手紙を送付したが、返事がないのでダーレンが受領したかどうか心配している
118	1934/3/29	ベルリン	封書	1	昨日 100 塊シリングを受領し、クレマース婦人とヴィーツェル婦人に心からの感謝を伝えるようダーレンに依頼
119	1934/6/18	ウィーン	葉書	-	長い間ダーレンからの連絡がない／ミース婦人や他の婦人に会ったら、心からよろしく伝えて欲しいとダーレンに依頼／私の状況は非常に悪い／近況報告
120	1934/8/1	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	Op. 45 のスコアとパート譜をすぐにベルリンのヘルマン・ホッペに送付して欲しいと依頼／8月15日に Op. 26 を「ラジオ・ウィーン」で演奏予定

<sup>16</sup> 1934年2月に作曲しミース婦人に献呈した《前奏曲 *Präludium*》(作品番号なし)を指す。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
121	1934/8/11	バーデン・バイ・ウィーン	封書	1	25 塊シリングを受領し、心からの感謝をダーレンに伝達／〔経済的困窮から脱するため、インドネシアへの移住を考え〕この歳で熱帯地方の暑さに耐えられると思うか、ダーレンに相談
122	1934/9/12	バーデン・バイ・ウィーン	封書	2	ウィーンに戻る旅費にも事欠いているのでお金を集めて送ってほしい／いよいよ進退窮まった
123	1934/9/28	バーデン・バイ・ウィーン	封書	4	ヴァイオリニストのヤロ・シュミートと一緒にバーデンで音楽学校を開設することを検討している。開設に必要な資金として 250 から 300 塊シリング貸してもらえないか。教え始めれば返すことは充分可能だ
124	1934/10/11	ウィーン	葉書	-	妻とウィーンに戻った。家を見つけたが、しばらくポール・デ・コンの処に身を寄せている／バーデンの音楽学校の計画は進捗があまりない
125	1934/10/19	ウィーン	葉書	-	新住所と電話番号を伝達／作曲家としてのボルトキエヴィチを忘れずにいつも協奏曲を演奏してくれて嬉しい／自分を助けるために骨を折ってくれることへの感謝。25 から 30 グルデンを送ってくれたら嬉しい
126	1934/11/21	ウィーン	葉書	-	間もなく 12 月 1 日で家賃を払うお金もない。100 塊シリングを至急送金してくれないか／ダーレンに Op. 45 の自筆譜を渡した。この自筆譜を担保してほしい／今は厳しいが時代が良くなれば出版社が印税をもっと払ってくれるだろう／今、Op. 52 を作曲している。これは自分の最高傑作だ。完成させるために手助けしてほしい

(6) 1935 年-1936 年 (28 通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
127	1935/1/2	ウィーン	葉書	-	Op. 52 が 12 月末に完成した／お金がないので、パート譜を自分で作成している／指揮者のカバスタ氏が「ラジオ・ウィーン」での初演を検討してくれている／「ラジオ・ウィーン」で 12 月 24 日に Op. 51 の弦楽オーケストラ版（初演）を、12 月 31 日に Op. 37 を演奏し、1 月 23 日に Op. 38（初演）と Op. 36 を演奏予定
128	1935/2/10	ウィーン	葉書	-	1934 年 12 月 24 日にウィーンで初演した Op. 51 を、35 年 1 月 25 日にベルリンの短波ラジオで演奏し、録音した。Op. 51 のスコアとパート譜を自分が受取り、ベルリンのカペルマイスターのバーレイに託すので、ダーレンは近日にそれらを受け取るだろう。すぐに指揮者と面会し、楽譜の賃貸料について話をしてほしい／Op. 52 は、ウィーンのラジオで初演予定／ロシアが昔のままだったら、もっと名誉とお金を手にしていただろうに
129	1935/2/16	ウィーン	封書	2	Op. 51 のスコアとパート譜をウィーンで受領した。Op. 51 の楽器編成と曲順を連絡。〔オランダの〕オーケストラのカペルマイスターに、各パートのパート譜が何部必要か、また、楽譜の賃料を払う意思があるかを尋ねるようダーレンに依頼
130	1935/3/5	ウィーン	葉書	-	Op. 51 を何ブルトで演奏するか、楽譜の賃料を支払う意思があるかを、カペルマイスターに会って聞いてほしい／15 から 20 グルデン送ってもらえると嬉しい／Op. 52 を「ラジオ・ウィーン」で 3 月末に初演予定

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
131	1935/3/26 <sup>17</sup>	ウィーン	葉書	-	Op. 52 を 3 月 30 日の夜に「ラジオ・ウィーン」でニリウス指揮、ウィーン交響楽団により初演することが決定。4 楽章で 36 分くらい。私の傑作だ
132	1935/4/10	ウィーン	封書	2	Op. 52 はニリウス指揮により大成功を収めた。演奏終了後、舞台上で楽団員もオベーションで迎えてくれた。自分の名声はこの演奏会で相当高まった。数年前であれば楽譜はすぐに売れたと思うが、この苦しい時代の中、楽譜の出版自体のハードルが高い。だから、自分の不治の病、金欠は永遠に治らない／5 月末までお金を貸していてくれないか
133	1935/11/5	ウィーン	葉書	-	自分の新作、《メルヘン・オペラへの序曲 Op. 53》は 8 分から 9 分かかかる。この曲は 1 月にウィーン（コンサート）とベルリン（ラジオ）で演奏予定／ピアノのためには全く作曲していない／お金が常に足りなくて心配が尽きず、気分が悪い
134	1936/1/7	ウィーン	封書	2	ダーレンがコンサートで Op. 37 を弾くにあたり、この曲はオーケストラのために書かれたものだけということプログラムで明示するよう依頼。（お祭り騒ぎ）は最後に！／1 月 12 日に Op. 53 がウィーン・コンツェルトハウスで初演される／16 日には「ラジオ・ウィーン」でチェロとピアノに編曲した Op. 46 が演奏される／長いこと作曲していないので気分が晴れない／Op. 48-2、5 をヴァイオリンとピアノに、Op. 46 を [チェロとピアノに] 編曲して、リトル社より出版予定。チャイコフスキとメック婦人の書簡集 2 冊 [i.e. 1 巻と 2 巻] をロシアから受け取れることになった。翻訳版をオランダで出版する可能性はあると思うか
135	1936/1/20	ウィーン	封書	2	チャイコフスキとメック婦人の書簡の最初の翻訳（25 書簡、18 枚）を同封する。オランダの新聞社 [i.e. レジデンティボーデ社] が興味を持って出版してくれることを期待する。この仕事を続行すべきかどうか教えてほしい。この仕事でお金が稼げるととてもありがたい。第 1 巻は 276 書簡、563 ページになる。第 2 巻も同じくらいの分量になる／1 週間前に Op. 53 が初演され、大成功を収めた
136	1936/2/13	ウィーン	封書	1	8 日前に [チャイコフスキとメック婦人の書簡の翻訳の] 88 ページまで発送した／手紙を送ったが返事がないので、すべて受け取ったことを期待する／今日は O ページ [ページはブランク] <sup>18</sup> まで送る
137	1936/2/18 1936/2/19	ウィーン	封書	2	【18 日】今日は [チャイコフスキとメック婦人の書簡の翻訳の] 残りの 129 ページから 153 ページを送る／3 ページの前書きは別途送る。前書きはドイツ語版用に書いたものを、[オランダ語版でも] 全部または部分的にダーレンの好みに応じて利用出来る。私の前書きとダーレンの前書きを併記してもいい。ドイツ語版に関しては、たった今ライプツィヒのブライトコプフ & ヘルテル社に興味があるかどうか尋ねた  【19 日】たった今レジデンティボーデ社から 50 グルデンの頭金を受領した。完成したらすぐに、残りの 150 グルデンを受領できたら嬉しい

<sup>17</sup> NMI はこの書簡を 3 月 6 日のものとして整理しているが、消印から 3 月 26 日の書簡と執筆者が判断し、表中に記載した。

<sup>18</sup> 1936 年 2 月 18 日の手紙を踏まえると、128 ページまで送付したと考えられる。



	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
138	1936/2/26	ウィーン	封書	2	ブライトコプフ&ヘルテル社からは、楽譜事業が厳しいため、楽譜以外の本は出版しないと断られた。その他のドイツの出版社からもオファーはない。今やレジデンティボーデ社がドイツ語版の出版もオファーしてくるのを待つのみだ/自分の誕生日の2月28日にOp. 52がウィーン楽友協会の大ホールで演奏される
139	1936/3/7	ウィーン	葉書	-	2月28日のコンサートは大成功だった。指揮者のユリウス・レーナートが来シーズンに、Op. 52を演奏したいと言ってくれた
140	1936/3/16	ウィーン	封書	2	やっと、[レジデンティボーデの]編集部から残りの150グルデンを受領した/ライプツィヒの出版社「ケーラー&アンメールンク」が[チャイコフスキとメック婦人の]手紙に興味を示し、タイプ打ちの[ドイツ語]原稿を送って欲しいと書いてきた/ロシアで[書簡集の]第3巻が夏に出版され、ダーレンがその本を[クリン社から]受け取れると嬉しい。ダーレンからクリン社の担当者へ出版後すぐに送るよう依頼してほしい/ラフマーニノフが先月ウィーンに来て壮麗な演奏をした。最後にロシアのピアノ小品を演奏し、来シーズンにボルトキエヴィチの作品を演奏すると自分に約束してくれた
141	1936/3/25	ウィーン	封書	1	「レジデンティボーデ」への200グルデンの領収書を同封/[チャイコフスキとメック婦人の書簡の]ドイツ語版についての要件を知りたい
142	1936/4/8	ウィーン	葉書	-	しばらくダーレンから連絡がない/[チャイコフスキとメック婦人の書簡の]ドイツ語版についての要件を知りたい/[チャイコフスキとメック婦人の書簡を]自分が翻訳した原稿について、ダーレンから編集部へ引き渡し済みか。オランダ語版はいつ出版予定か
143	1936/4/17	ウィーン	葉書	-	ダーレンがコンサートでOp. 37を弾いた際の聴衆の反応を教えてほしい/[チャイコフスキとメック婦人の書簡の]ドイツ語版についての要件を知りたい/4月27日に楽友協会のバレエの夕べで、ダンス学校「の生徒」が自分の音楽に合わせて踊ることになった
144	1936/4/24	ウィーン	封書	2	今日やっとダーレンから手紙が来たが、残念ながら[レジデンティボーデ社のドイツ語版出版に対する]見解について書かれていなかった。どうして返事をくれないのか/ライプツィヒの「ケーラー&アンメールンク」が書簡に興味を持ってくれた。しかし、手書きの原稿をタイプ打ちしないとイケない。[レジデンティボーデ社が]ドイツ語版も引き受けて、高額報酬を支払ってくれると嬉しい/ダーレンの演奏会でのOp. 37の成功に感謝する
145	1936/5/31	ウィーン	葉書	-	[チャイコフスキとメック婦人の書簡の]第3巻がクリン社から間もなくダーレンのもとに届くか。手許に届いたら直ぐに自分に送ってほしい。夏場のちょうどいい仕事になる/明日、バーデンに向かう予定/[レジデンティボーデ社の]ドイツ語版に対する返事を待っている/最近、ピアノ曲で新しい作品は書いていない
146	1936/6/15	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	ダーレンに演奏会のプログラムを送ってくれたことへの礼/なぜ、最近手紙が入っていないのか/[レジデンティボーデ社の]ドイツ語版に対する返事はどうなったのか。クリン社からの第3巻はいつ手に入るのか。直ぐに翻訳に取り掛かるので送ってほしい。オランダ語版はいつ出版するのか/[6月]28日に「ラジオ・ウィーン」で演奏する

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
147	1936/7/14 <sup>19</sup>	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	クリン社に[チャイコーフスキイとメック婦人の書簡の]第3巻がいつ出版されるのか直ぐに問い合わせしてほしい。ドイツ語版は全3巻になるだろう。[レジデンティボーデ社の]編集部にとり自分の手書き原稿が読みやすいか、または、手書き原稿をタイプ打ちすべきかどうかを至急再確認してほしい。タイプ打ちが必要ならば、直ぐに手書き原稿を自分に返送してほしい/ダーレンに、ソビエト化したロシアには行かないほうが良いと助言
148	1936/8/28	バーデン・バイ・ウィーン	封書	1	ダーレンに、なぜ手紙を送らないのかと問いかけ。チャイコーフスキイの書簡のドイツ語版出版の返事がない/すでに2月[正しくは3月]の時点でドイツ語版についてケーラー&アンメルンクが興味を示していることから、早く編集部の答えを聞いてほしい。長くは待てない。もし、編集部が提示するドイツ語版の報酬が充分でない場合、すぐに手書きの原稿を自分に返送してほしい/クリン社から第3巻をいつ入手できそうか
149	1936/10/3	ウィーン	封書	2	『回想録』を14枚目まで書き上げ、サンプルとしてダーレンから新聞社に渡せるよう同封した。書簡集のオランダ語版の進捗を照会/Op. 55を作曲している。第2楽章を書き終えた。ピアノ曲は長いこと作曲していない
150	1936/10/12	ウィーン	封書	2	今日、ダーレンに『回想録』をさらに22枚送った。これで全36枚になる。出版社が長いこと[チャイコーフスキイとメック婦人の書簡の]自分の原稿を手許に置いていることを踏まえ、ドイツ語版の出版を引き受けたものとみなす。これまで多くの時間を無駄にさせたことはこの上なく不当だ。原稿をタイプ打ちしてドイツの出版社[ケーラー&アンメルンク]に既に提供を申し出ているのに
151	1936/10/22	ウィーン	封書	1	8日前にダーレンに『回想録』を15から36枚目まで送ったのに、なぜ連絡がないのか。今日は、37から66枚目まで送る/[レジデンティボーデの]編集部がオランダ語版の本[チャイコーフスキイとメック婦人の書簡集]を一度も送ってきていない
152	1936/10/31	ウィーン	封書	2	レジデンティボーデ社からオランダ語版の本と、自分の手書き原稿がやっと届いた/ダーレンに『回想録』をさらに28枚送る。これで全94枚になる。ダーレンがオランダ語訳を完成したら手書き原稿は全部返送してほしい/我々の本[チャイコーフスキイとメック婦人の書簡集のオランダ語訳]の評判はどうか/ダーレンに、オランダで60歳記念の「ポルトキエヴィチの夕べ」をアレンジできるか照会。プログラムについて、指揮者は自分で、Op. 53、Op. 16 (ソリストはダーレン)、Op. 52を提案
153	1936/11/15	ウィーン	葉書	-	ダーレンが『回想録』に興味を持ってくれ、また、間もなく翻訳が完了することを嬉しく思う。終わったら手書き原稿を返送してほしい。もし、『回想録』で高い報酬が得られたら嬉しい/Op. 55の第3楽章まで完成した。全4楽章の調性を連絡
154	1936/12/23	ウィーン	葉書	-	クリスマスと新年の挨拶/60歳の記念にOp. 50が、4人のソリストと大オーケストラと自分の指揮により、「ラジオ・ウィーン」で演奏される

<sup>19</sup> NMIはこの書簡を7月19日のものとして整理しているが、ポルトキエヴィチ自身の日付の記載から7月14日の書簡と執筆者が判断し、表中に記載した。

## (7) 1937年-1938年(30通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
155	1937/1/12	ウィーン	葉書	-	Op. 50が「ラジオ・ウィーン」で2月3日に放送予定／オランダでのチャイコフスキイとメック婦人の書簡集および、ポルトキエヴィチの『回想録』の出版計画の進捗について照会
156	1937/1/22	ウィーン	封書	1	クリン社からチャイコフスキイとメック婦人の[i.e. ロシア語の]書簡の残り[i.e. 第3巻]が出るか確認を依頼。ドイツの出版社からは書簡が揃うまで翻訳の出版を延期したいとの申出を受けたと報告
157	1937/2/20	ウィーン	葉書	-	2月3日のOp. 50のラジオ放送について、ダーレンから感想がないことにクレーム／クリン社からの回答状況、自身の『回想録』の状況を照会
158	1937/3/3	ウィーン	葉書	-	Op. 50がラジオで放送されて反響が大きい。名声は得られるが経済的には報われない／以前質問した、クリン社からの書簡集第3巻の出版見込み、レジデンティボーデ社からの『回想録』出版計画の進捗について再度回答を要請／ヴィーツェル婦人から自分の60歳記念のお祝いがない。彼女宛にダーレンから2月3日のラジオ放送の案内を送り忘れていないか確認
159	1937/3/11	ウィーン	葉書	-	ロシア人の知人からチャイコフスキイとメック婦人の書簡集の第3巻と第4巻が出版されたと聞いた。自分に送付してくれればすぐに翻訳する／3月2日にフランクフルトでOp. 52が演奏された。3月30日に録音盤が再放送される予定
160	1937/4/3	ウィーン	葉書	-	ダーレンの演奏会でOp. 29が好評を博したと聞き嬉しい／4月7日にバーデンでOp. 22が演奏される予定／『回想録』がオランダで出版される予定と聞き嬉しい／Op. 55の第4楽章を昨晚書き上げた
161	1937/5/8	ウィーン	封書	2	1ヶ月返信がないがどうしたのか／『回想録』が出版されるか教えて欲しい／クリン社からチャイコフスキイの書簡集第3巻を入手したなら、翻訳を始めるので送って欲しい／Op. 55を最近書き上げた。Op. 52とは構成を変え、より特徴的にした／ベルリンでOp. 16が2回演奏され、ラジオで5回放送予定
162	1937/6/1	ウィーン	葉書	-	6月11日にベルリンのラジオでOp. 16が放送予定／プラハのラジオでOp. 52が放送予定／チャイコフスキイの書簡第3集と『回想録』の状況を教えて欲しい
163	1937/7/26	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	Op. 45をダーレンに貸与していたのを忘れており、7月23日にケーニヒスベルクのラジオでホッペ氏に演奏してらもう機会を逸した。ロイヤリティが貰えず残念だ
164	1937/7/28	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	長い間連絡がないがどうかしたのか／チャイコフスキイの書簡の第3巻が出て随分経つがウィーンでは手に入らないので送って欲しい。また、『回想録』の出版はどうなっているのか／写譜屋を雇うお金がないので、Op. 55のパート譜を何部も写しており疲れた／Op. 54を作曲した
165	1937/8/12	バーデン・バイ・ウィーン	封書	2	ダーレンからソ連を旅すると聞いて驚いた／ソ連の悪口／ヴィトゲンシュタインがOp. 28をキエフで演奏した際、大好評で2回弾かざるを得なかったことがある／ダーレンはOp. 16を大変美しく弾くので好評間違いなしと思う／ポルトキエヴィチの作品はソ連の人々に古き佳き時代の思い出を想起させると思う

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
166	1937/9/23	バーデン・バイ・ウィーン	封書	2	ダーレンのロシアでのコンサートが成功したと聞いて嬉しい／ダーレンの手紙を読んでいて涙が溢れた。ダーレンも祖国を失った私の不幸をわかってくれたと思う／聴衆が涙したと書いてくれたことに感動した。私が同胞の深い痛みを、自分の多くの作品で表現しようとしてきたことが伝わった／ピアノ協奏曲は、まず第1番を演奏し、2回目にオルガンとより大きな編成のオーケストラを必要とする第3番を演奏したほうが良い
167	1937/10/14	ウィーン	封書	2	ロシア語のプロフィールを同封する。これは加筆しないでほしい。さもないとボリシェヴィキの怒りを買って、検閲されるだろう／次回はいつロシアで演奏旅行をするのか／Op. 37はオーケストラ版がもとなので、ピアノ版に対するロシアの聴衆の反応は今ひとつつかもしい
168	1937/11/25	ウィーン	封書	2	ダーレンから 35 グルデン受領／ダーレンをポルトキエヴィチの使徒として賞賛／1月にドイツに久しぶりに行く。ドレスデンで幾つかのコンサートが、ベルリンではラジオ放送が決まった／最近、「ラジオ・ウィーン」のディレクターで、有名な指揮者のカバスタ氏が Op. 55の初演を年明けにしてくれることになった／ライプツィヒのラジオ局でも演奏することになった
169	1937/12/23	ウィーン	葉書	-	新年の挨拶／1月31日にライプツィヒで演奏予定／チャイコフスキイの書簡集の状況について照会
170	1938/1/4	ウィーン	葉書	-	1月末に仕事でベルリンに行く予定／ベルリンからハーグの旅費を出してくれさえすれば、ハーグと一緒にコンサートができる
171	1938/1/18	ウィーン	封書	2	1月末のライプツィヒでの演奏会は、膀胱の調子が悪いのでキャンセルした／アムステルダム「ラジオ・オンループ」から演奏依頼があった。これに合わせて、旅費を賄うためにキュンストクリンクで演奏会が開けるかダーレンに打診
172	1938/1/31	ウィーン	封書	2	アムステルダムのラジオでの演奏が3月1日に決まった／キュンストクリンクでの演奏会はラジオ放送の前の2月26、27、28日のいずれかにするのはどうか
173	1938/2/8	ウィーン	葉書	-	キュンストクリンクでのコンサートが開けなくなったと聞いて残念だ／2月20日に「ライヒスゼンダー・ミュンヘン」[i. e. ラジオ局]で演奏する
174	1938/2/18	ウィーン	葉書	-	2月19日にミュンヘンに向けて出発する／急ぎの連絡はミュンヘンの滞在先に送ってほしい
175	1938/2/21	ミュンヘン	葉書	-	2月22日に「オランダの」ナイメーヘンを発つ。21:21にハーグ着予定
176	1938/3/2	アーメルスフォールト	葉書	-	3月1日にオランダの指揮者のメンゲルベルク氏と面談。ポルトキエヴィチが交響曲をピアノで演奏したところ、メンゲルベルク氏が気に入り、演奏会で取り上げたいとの申し出あり
177	1938/3/12	ベルリン	葉書	-	ベルリンで Op. 55をピアノで弾いてみせたところ、2つのラジオ局から放送したいとのオファーがあった
178	1938/4/4	ウィーン	封書	2	指揮者のシュタイナー氏がベルリンのラジオで夏休み前に Op. 55を演奏してくれることになった／Op. 55の初演が決まった。ウィーンで指揮者のカバスタ氏が4月27日に演奏する／ベルリンのオペラハウスが Op. 50に興味を持ってくれたのでピアノ版の楽譜と台本を送った／ライプツィヒの出版社ケーラー&アンメーレンクが、チャイコフスキイとメック婦人の書簡集の出版に同意した／妻エリザヴェータからダーレン夫人へのメッセージ

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
179	1938/4/26	ウィーン	封書	2	ダーレンの誕生日を1ヶ月勘違いしておりお祝いを述べなかったことの詫び／Op. 55の初演は4月27日の予定／ベルリンの短波ラジオ局でアメリカに向けてOp. 55が演奏される予定
180	1938/5/3	ウィーン	葉書	-	チャイコーフスキイとメック婦人の書簡集をライブツィヒの出版社が出版してくれることになった
181	1938/10/11	ウィーン	葉書	-	イタリアに出かけてきた。イタリアで自分の曲を演奏する機会を作れるかと期待していたが難しそうだ／オランダでも交響曲を演奏してもらう機会がなかなか無い／チャコフスキーとメック婦人の書簡集はドイツで大成功を収めている／Op. 54の楽譜は届いた頃だろうか
182	1938/10/19	ウィーン	葉書	-	Op. 55がオランダで演奏されると聞いたが、いつ、どこでか知りたい／ラフマーニノフの狂詩曲はどうか。自分は彼のピアノ協奏曲第2番がベストだと思う
183	1938/10/26	ウィーン	葉書	-	もうすぐダーレンが祖父になると聞いて喜んでる／自分の友人でブラームスの評伝を書いたアルフレート・フォン・エーマンが最近没した。彼が蒐集したブラームス・ライブラリーの目録を同封した。未亡人にコレクションを売却したらどうかと提案した。誰か適切な買い手が思いついたら教えて欲しい
184	1938/12/22	ウィーン	葉書	-	クリスマスと新年の挨拶／Op. 57のオーケストラ版は完成。年明けに「ラジオ・ウィーン」で初演予定 [妻エリザヴェータの署名入り]

( 8 ) 1939 年 ( 9 通 )

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
185	1939/1/31	ウィーン	葉書	-	2月8日にベルリンでOp. 55が演奏される／2月22日には「ラジオ・ウィーン」でピアノ小品を自分で演奏する
186	1939/2/17	ウィーン	葉書	-	指揮者のハインリッヒ・シュタイナーが病気になる、2月8日のコンサートが2月22日に延期された／3月11日に「ラジオ・ウィーン」でOp. 57が初演予定
187	1939/3/6	ウィーン	葉書	-	Op. 51がウィーンのエディションから出版された／3月11日にOp. 57が「ラジオ・ウィーン」とドイツの10のラジオ局で初演される／3月12日は「ラジオ・ウィーン」でOp. 37が演奏される
188	1939/6/3	ウィーン	葉書	-	6月の終わりに胃を癒すためにユーゴスラビアのロガージュカ・スラティナに行く予定／その後、親族を訪ねてブレードとベオグラードに行く／秋にベオグラードのラジオで演奏予定
189	1939/8/6	ウィーン	葉書	-	最近返事がないがどうしているのか
190	1939/8/26 <sup>20</sup>	ベオグラード	葉書	-	長い間連絡がないがどうかしたのか／9月4日(月)に「ラジオ・ベオグラード」でピアノ小品を、10月3日にはOpp. 16、52を演奏予定。10月6日には「ザグレブ・ラジオ」でも演奏する

<sup>20</sup> NMIはこの書簡を1910年9月14日のものとして整理しているが、消印に加え、ベオグラードから発信され、本文に9月4日が月曜日と書かれていること、1934年作曲のOp. 52を演奏すると述べられていることから、1939年8月26日の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所( ( 8 ) )の表中に記載した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
191	1939/10/26 <sup>21</sup>	ベオグラード	葉書	-	ユーゴスラビアでのラジオ演奏の報告／Op. 55 のパート譜か、Op. 52 のスコアとパート譜をダーレンに送る必要があるか確認
192	1939/11/25 <sup>22</sup>	ベオグラード	葉書	-	なぜ君から返事がないのか。Op. 55 のパート譜か、Op. 52 のスコアとパート譜をダーレンに送る必要があるか確認／指揮者のフェーレイは Opp. 19、37、51 を演奏したいのか／12月3日に「ラジオ・ベオグラード」でピアノ小品を演奏する／終わったらウィーンに戻る
193	1939/12/30	ウィーン	葉書	-	どうして君から長い間連絡がないのか／ウィーンの古い家に戻ってきた／Op. 55 のパート譜か、Op. 52 のスコアとパート譜をダーレンに送付すべきか尋ねる／新年の挨拶

(9) 1940年 (9通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
194	1940/1/14	ウィーン	葉書	-	ベオグラードから2通、ウィーンから1通送ったが返事がない。クリスマスカードも新年のカードも来なかった。病気でもしているのか／丁度 Op. 58 を書き終えて Op. 59 に着手した
195	1940/1/30	ウィーン	葉書	-	ダーレンに書留で Op. 52 のスコアを送った。Op. 55 のスコアはダーレンの手許にあるとの認識／実際に交響曲が演奏されるか教えて欲しい。演奏されるならパート譜を送る
196	1940/3/7	ウィーン	葉書	-	2月28日の誕生日にヨンヘーベルス夫人からプレゼントの小包が届いた／ダーレンの小包は通関で時間がかかったせいか今日届いた。プレゼントをありがとう／このところ全く返信がないがどうしたのか。交響曲のスコアが届いたか教えて欲しい
197	1940/3/18	ウィーン	葉書	-	手紙とダーレンのピアノ・リサイタルのプログラムが届いた／ダーレンの弟子のヨンヘーベルス夫人からも小包を受け取った
198	1940/4/8	ウィーン	葉書	-	ソーセージ、ハム、チーズを送ってほしい
199	1940/4/13 <sup>23</sup>	ウィーン	葉書	-	ダーレンが作曲を始めたことへの驚き／自分も小説を1つ書いたが作曲に戻る／オランダで自分の交響曲を演奏してもらおう機会はあるそうか
200	1940/4/24	ウィーン	葉書	-	なぜ返事をしてくれないのか／お茶が切れてしまいロシア人としては辛い／ベーコンかハードソーセージを送ってほしい
201	1940/8/22	n. d.	葉書	-	ついにフランス経由でオランダに手紙を送る方法を見つけた。こんな苦勞をするのは愚かで犯罪的なドイツ人のせいだ／食糧事情が厳しく、妻は45キロ、自分は30キロ以上痩せた／今シーズン初のコンサートが9月18日にある。Op. 16 を弾き、Op. 51 と交響曲を指揮する

<sup>21</sup> NMIはこの書簡を1910年9月1日のものとして整理しているが、ボルトキエヴィチ自身の日付の記載から1939年10月26日の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所(8)の表中に記載した。

<sup>22</sup> NMIはこの書簡を1910年9月1日のものとして整理しているが、ボルトキエヴィチ自身の日付の記載から1939年11月25日の書簡と執筆者が判断し、適正な箇所(8)の表中に記載した。

<sup>23</sup> NMIはこの書簡を3月4日のものとして整理しているが、この書簡はタイプライターで書かれており、ボルトキエヴィチが打った日付の記載から4月13日の書簡と執筆者が判断し、表中に記載した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
202	1940/10/27	ウィーン	葉書	-	夏はイシュルに滞在した／Op. 58 がライブツイヒのジムロック社から出版される予定。Op. 59 はウィーンのユニバーサル・エディションから出版される予定。しかし、予定より遅れている

( 1 0 ) 1941 年-1942 年 ( 7 通 )

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
203	1941/3/4	ウィーン	葉書	-	ダーレンのスラブ風序曲の譜面を見たい／すでに Opp. 58、59 の校正譜を出版社に返送している。出版されることを願う
204	1941/5/11	ウィーン	葉書	-	5 月 2 日のダーレンの葉書を受領／ダーレンの作曲家としての成功への祝意／Op. 59 の楽譜がユニバーサル・エディションから届き次第ダーレンに送る／Op. 58 は紙不足で出版が遅れている
205	1941/6/7	ウィーン	葉書	-	クアハウスオーケストラと「ラジオ・ヒルヴァーサム」で演奏することが決まったら教えて欲しい。また、パート譜は何部必要か知りたい。詳細を教えてください。次第、パート譜を送る
206	1941/8/4	バート・イシュル	葉書	-	テオドール・レシェティツキも毎年避暑に訪れていたバート・イシュルに来ている／つい最近、Op. 59 が出版されたので、ダーレンに献本するよう出版社に指示した。Op. 58 は紙不足で出版が滞っている
207	1942/1/13	ウィーン	葉書	-	ダーレンの演奏した Op. 37-6 を聴けなかった。最近は外国のラジオを聴くことが禁止されている／ダーレンが作曲した作品のスコアを送ってほしい／Op. 61 を書き終えた。Op. 60 の第 1 楽章が完成した
208	1942/9/23	ウィーン	葉書	-	ついにダーレンから連絡があった／Op. 60 は 4 楽章構成／Op. 61 の譜面を送る／出版社は紙不足でいつ出版されるかわからない
209	1942/10/14	ウィーン	葉書	-	11 月 29 日にセルゲイ・ボルトキエヴィチ・ソナタ・リサイタルを開催する。曲目は Opp. 26、60、36 で、演奏者はチェロがポール・グリュマー、ヴァイオリンがヤロ・シュミート、ピアノは自分。オランダでも演奏できたらいいのだが、戦時中のため楽譜を送れない

( 1 1 ) 1943 年-1947 年 ( 21 通 )

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
210	1943/1/17 <sup>24</sup>	ウィーン	葉書	-	ハーグ・レジデンティ管弦楽団の指揮者が Op. 55 を演奏したいとダーレンが書いてきたが、なぜ Op. 52 ではないのか。貴重なパート譜が輸送過程で失くなるリスクが高い／自分のピアノ・ソナタ [i.e. Op. 60] は大成功だった／2 月 14 日に Op. 16 を演奏する予定

<sup>24</sup> NMI はこの書簡を 1943 年 3 月 17 日のものとして整理しているが、本文に Op. 16 を 2 月に演奏予定と書かれていること、ボルトキエヴィチ自身の記載した日付から、1943 年 1 月 17 日の書簡と執筆者が判断し、表中に記載した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
211	1943/2/9	ウィーン	葉書	-	オランダの指揮者から交響曲演奏の意思表示を書面で送るよう依頼。当局から譜面をオランダに郵送する許可を得やすくなる。そうすれば Op. 60 の譜面もダーレンに送れる／ダーレンがボルトキエヴィチ・リサイタルを開くことへの謝意。Op. 60 はコンサートメニューの「ロースト肉」[i.e. メイン] たり得る／2月14日に Op. 16 をウィーン・コンツェルトハウスで演奏する
212	1943/3/23	ウィーン	葉書	-	ダーレンのボルトキエヴィチ・ピアノ・リサイタルでは60曲も弾いたと聞いた。長すぎたりしなかったらどうか／Op. 60 の楽譜をダーレンに送りたいが自筆譜は郵送が禁じられている
213	1943/5/21	ウィーン	葉書	-	ウィーンでオランダ人ヴァイオリニストのヤープ・エムナーと知り合った。彼に Op. 60 をダーレンに手渡すよう頼んだ。Op. 60 はどこでも成功を収めており、ボルトキエヴィチ・リサイタルのメインにふさわしい／エムナーは来シーズンに Op. 26 を弾くと言ってくれた
214	1943/6/22	ウィーン	封書	1	アムステルダム「ラジオ・ヒルヴァーサム」へ、自身の作品の演奏許可を伝えてほしい／エムナーに Op. 60 の楽譜をダーレンに手渡すよう別の手紙で催促した。ダーレンからも連絡してほしい／7月1日に「ラジオ・ウィーン」で Op. 51 が演奏される予定
215	1943/7/6 <sup>25</sup>	ウィーン	葉書	-	エムナーに Op. 60 の楽譜をダーレンに手渡すよう託したが結果連絡がなく、心配している。まだ受け取っていないなら、ヤープ・エムナーにダーレンからも書いてほしい／エムナーは秋に Op. 26 を弾くことになった。エムナーから一度も連絡がない／ボルトキエヴィチ夫妻は夏中ウィーンに留まる予定だ
216	1943/8/25	ウィーン	葉書	-	ダーレンについて Op. 60 の譜面が届いて嬉しい。Op. 60 はボルトキエヴィチ・リサイタルのメインにふさわしい曲だ。ウィーンでは聴衆とプレスから賞賛されている／Op. 60 の演奏法について／9月8日に Op. 51 が「ラジオ・ウィーン」で演奏される
217	1944/2/7	ウィーン	葉書	-	ヴァイオリニストのエムナーとピアニストのペンバウアーがウィーンで Op. 26 を演奏した。7回もカーテンコールが続くほどの成功だった／ダーレンに Op. 32 の楽譜をラーター社に送ることを依頼。ライプツィヒの同社屋が連合軍の空爆で被災したため。Op. 28 のスコアは燃えたがパート譜は残った
218	1944/3/20	ウィーン	葉書	-	ダーレンが来シーズンに Op. 32 を演奏する予定と書いてきたが、ラーター社から依頼があったとおり、手許の楽譜を同社に一旦返送してから、改めて借り受けてほしい／Op. 60 をダーレンに献呈したいのは山々だが、ウィーンの友人[i.e. クレーホーフエン]に既に約束してしまった
219	1944/5/29	ウィーン	葉書	-	25日にラーター社から、ダーレンが Op. 32 の楽譜を返送してこないとのクレームがあった。速やかに楽譜をラーター社に送ってほしい／出版社が紙不足で新たに印刷できないだけでなく、在庫も燃えてしまい品切れとなっているので、Op. 26 の印刷譜をオランダで見つけたら自分に送ってほしい

<sup>25</sup> NMI はこの書簡を 1947 年 7 月 6 日のものとして整理しているが、日付と消印から 1943 年の書簡と執筆者が判断し、表中に記載した。なお、この葉書の消印は 7 月 5 日となっているが、ボルトキエヴィチは 7 月 6 日と記載しているため、7 月 6 日の書簡として表に記載した。



	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
220	1946/6/3 <sup>26</sup>	ウィーン	封書	4	1945年2月8日の米軍の空爆時に80キロの石が家の壁を突き破って入ってきた。壁に穴が開いて冬中凍えていた。ナチスの兵士が家の側でロシア兵と戦闘をしており、危うく死にかけた。勇気を持ってワインセラーから飛び出してロシア語で呼びかけたおかげで27人の命が救われた。爆撃で死んだほうがマシだった。食糧事情は厳しく、監獄以下だ。このような状況下、ほとんど作曲できていない。ナチスは敗色が濃くなるにつれ、自分の音楽はロシア物であるとして演奏が禁止された。AKMはナチスが創ったスタグマに乗っ取られ、自分の年金も盗まれてしまった。食糧の小包を送ってくれたらどれほど嬉しいことか
221	1946/7/24	ウィーン	葉書	-	ダーレンの弟子のマルホランドから、小包を2つ送ったとの嬉しい知らせがあった。残念ながらどの方法で送ったか書いていなかったので途中で失くなってしまったのではないかと心配している／妻が7週間、病気で入院や自宅静養をしている
222	1946/8/1	ウィーン	封書	2	ポール・デ・コンの息子がオランダ軍の任務でウィーンにおり、彼宛に物資を送ることを許可してくれた。これで安全確実に小包を送ってもらえると思う／妻は引き続き調子が悪い
223	1946/10/21	ウィーン	封書	4	ダーレンの母が亡くなったことへのお悔やみ／マルホランドから温かい手紙と小包を受領／ダーレンからの小包は未着／12月12日にウィーンでコンサート（47年2月28日の70歳の誕生日のリハーサル）を開くことが決まった／Op. 62とOp. 63がもうすぐウィーンの出版社から出版される。Op. 66も印刷中。Op. 66をちょうど作曲し終わった／ウィーン市立音楽院で教えているため、なかなか演奏旅行に出かけられない
224	1946/11/18	ウィーン	封書	2	ダーレンからの小包がまだ届かない／オランダ人のジョルジ・ファン・ルネッセに、マルホランド宛の手紙と、彼女に献呈するOp. 66の前奏曲2曲の譜面を託した
225	1947/2/24	ウィーン	封書	2	やっとダーレンから連絡が来た／近況報告／この金曜日[i.e. 4日後]に70歳になる／Opp. 62、63 <sup>27</sup> 、65がつい最近ドブリンガー社から出版された <sup>28</sup>
226	1947/4/19	ウィーン	封書	2	ダーレンがモステールト氏と一緒に送付した生活物資の小包が昨日届いた／オランダも忌々しいナチスや戦争に苦しんでいるのは知っているが、生活は既にほとんど正常だと聞いた。しかし我々はまだほど遠い／ダーレンとマルホランド宛ての手紙とOp. 65のコピーが2部あるので、ウィーンにコンサートで来ているオランダ人演奏家2人のどちらかに託そうと思う／ウィーンで出版したOp. 62とOp. 63もダーレンに送付するつもりだ
227	1947/8/29	ウィーン	葉書	-	しばらくダーレンから返事が無いが、どうしたことだろう／オランダ人のヴァイオリニストのボーム氏にOp. 65の譜面を託したが受領しているだろうか。Opp. 62、63がウィーンで出版されているが、貿易規制が厳しくまとまったロットでダーレンに送ってオランダで売ってもらうことができない

<sup>26</sup> これは第2次大戦後にポルトキエヴィチがダーレンに初めて送った書簡。原本は付録iiページ参照。

<sup>27</sup> ポルトキエヴィチは「ヴァイオリン・ソナタ」と書いているが誤りで、《ヴァイオリンのための4つの組曲Op. 63》を指す。

<sup>28</sup> 実際は、Op. 62とOp. 63はクリメント社、Op. 65はドブリンガー社から出版されている。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
228	1947/9/12	ウィーン	封書	2	ボルトキエヴィチ協会の会員リストを同封した／オランダの指揮者のエドゥアルド・フィルプス氏が Op. 55 のことを忘れずにいて、演奏することを検討してくれている。フィルプス氏にはダーレンが譜面を持っていると書こうと思ったが、今年初めのウィーンでのコンサートの際に数箇所を書き直したので、彼に新しいものを送ろうと思う
229	1947/10/27	ウィーン	封書	2	近況報告／1月の頭にプラハとブダペストで演奏予定／オランダで演奏したい
230	1947/11/19	ウィーン	封書	2	喜ばしいことに歌手のアントン・デルモタと12月15日に「作曲家の夕べ」を開催する／年明けにプラハとブダペストの仕事が決まった。再び旅に出られて嬉しい／Op. 55の修正をしたいので、ダーレンが持っている楽譜を、オランダに出かけるデルモタ夫人に渡してほしい

(12) 1948年-1952年 (11通)

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
231	1948/3/10	ウィーン	葉書	-	首にできた膿瘍のせいで高熱が続き2月29日から入院し、退院したばかりだ。3月25日にはプラハでピアノ作品と Op. 36 をラジオで演奏する予定だが、ビザがおりるか不透明。
232	1948/4/3	ウィーン	封書	2	ダーレンの60歳の誕生祝い／健康の重要性。最近、首に膿瘍ができて高熱が続き数日入院した。ペニシリンで治ったが体力が戻らない／《オリンピック・スケルツォ》がウィーンで初演され、ロンドンに〔譜面が〕送られた。オリンピック期間中にロンドンでしばしば演奏される予定
233	1948/4/29	ウィーン	葉書	-	ポール・デ・コンの娘がダーレンを訪ねると思うので Op. 55 の譜面を手渡して欲しい。彼女にウィーンまで持って帰ってもらい修正を書き加える
234	1948/9/21	ウィーン	封書	3	最近、紙の束から「デ・デルバー」誌の1931年のダーレンの記事が出てきた。ダーレンが自分の伝記を参照しているため、手許に伝記を保管しているならばボルトキエヴィチ宛に送ってほしいと依頼／ダーレンが Op. 32 の楽譜をラーター社に送ったか改めて確認／フィリピンピアノ教師がウィーンを訪ねてきた折、ボルトキエヴィチの曲がマニラで人気だと聞いた。若くて暑さが酷くなければ移住していた／生活苦への愚痴
235	1948/11/2	ウィーン	葉書	-	前回聞いたのは、ボルトキエヴィチ自身が書いた伝記の原本の有無。3部作って、2部は戦争中に燃えてしまったことから、ダーレンが最後の望み
236	1949/12/14	ウィーン	封書	2	最近、ダーレンから返事がこなくなったが何故か。どうしたら〔作曲家としての〕ダーレンはアコーディオンのような、どうしようもない楽器に入れ込めるのか。突然、超現代的になったのか／ボルトキエヴィチ協会の活動について。すぐれた芸術家と著名な聴衆が自分の周りに集い、現代的な無調の世界から〔ロマン派の美しい世界を〕取り戻している／ドイツの出版社とは連絡が取れない。初期の作品は品切れだ
237	1950/10/19	ウィーン	葉書	-	ダーレンからの手紙への謝意／ボルトキエヴィチ協会の現況報告。これまで14回のコンサートを行い、毎回新曲を自分が演奏した。妻が1年以上病気のため気持ちは減入っているが、引き続き作曲をしている

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要
238	1951/6/1	ウィーン	葉書	-	1月と3月にインフルエンザに罹り体力が弱っているが、今でもボルトキエヴィチ協会やラジオで演奏している。随分前 [i.e. 1949年] に校正したが、ジムロック社は未だに Opp. 60、61、64 を出版してくれない／妻が酷い双極性障害で自分も苦しんでいる。絶望しないように勇気を奮い立たせている
239	1951/7/1	ウィーン	葉書	-	自分の親友のクレーホーフエンがオランダでの会議に出席する際にハーグに立ち寄る。彼はボルトキエヴィチ協会の代表で、設立時にイニシャティブを取ってくれた。親切にも彼はダーレンにこの葉書を届けてくれる／妻の病状は相変わらず重い。半分死んだような人と一緒に暮らすのは骨が折れる。このような状態になってかれこれ2年になり、これが多分自分の最後の1年だと思うと辛い
240	1952/3/18	ウィーン	封書	2	「ラジオ・ウィーン」で自分の75歳記念コンサートを3月23日と26日に放送する。[2月26日の] コンサート自体は大成功を収め、聴衆もプレスも賞賛してくれた。ついに、自分は大ホールで大編成のオーケストラとソリストによるコンサートを開催できる機会を示せた。篤志家とマネージャーがついていたら、大都市でこのようなコンサートを企画でき、状況が随分変わるだろうに
241	1952/6/28	ウィーン	封書	2	自分と同じ建物に住むヘーグ氏が、ダーレンを訪ねる予定／ジムロック社からは Opp. 60、61、64 がまだ出版されていない

### (13) 日付不明 (30通)

日付不明の書簡に対しては、本文の内容をもとに可能な限り送付時期を推定した。年月日が推定できた書簡については、「年/月/日」欄の日付の下に「(年/月/日)」を記載し、その理由を「概要/考察」欄に「【考察】」と明記した上で記載した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要／考察
242	n.d. (1911 夏)	n.d.	封書	-	残念ながら印刷が遅れていた Op. 15 をやっとあなた [i.e. ダーレン] に送付できる。オランダの教師や教育者に勧められてほしいとお願いしていた Op. 14 も同封する／今月29日に [スイスの] ルガーノに行く  【考察】 本文に Opp. 14、15 の出版について言及しており、1911年5月14日の書簡と関連しているため、1911年夏と判断した。
243	n.d. (1920 以前)	ナポリ	葉書	-	滞在先からのダーレンへの近況伺い  【考察】 ベルリンに宛てて送付しており、ダーレンがベルリンを離れハーグで教鞭を取り始めたのが1920年であることから、それ以前の書簡だと考えられる。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要／考察
244	n.d. (1922/12)	ウィーン	葉書	-	Op. 22 を 12 月 17 日に自分が指揮してプラハで初演する／Op. 20 を 1 月 22 日にブダペストで演奏する／作曲者の指揮、ポール・デ・コンのピアノで Op. 16 をウィーンで演奏し、大成功を収めた 【考察】『回想録』で、Op. 22 を 1922 年にプラハで、Op. 20 を 1923 年にブダペストで初演したとの記述 (Bortkiewicz 2001: 37) があること、Op. 16 の演奏会の内容が 1922 年 8 月 7 日の書簡に記載された 11 月のウィーンの演奏会と一致していることから、1922 年 12 月の書簡と考えられる。
245	n.d. (1923/2)	ベルリン	葉書	-	ベルリンでシュミットとの演奏会が成功した／Op. 22 の手書きのスコアとパート譜について言及／ベルリンには 15 日まで滞在する必要がある 【考察】1923 年 1 月 17 日の書簡でシュミットとのベルリンでの演奏会について言及していること、n.d. (1922/12) の書簡で Op. 22 を初演したことを記述していることから、1923 年 2 月の書簡と判断した。
246	n.d./2/12 (1923/2/12)	ベルリン	封書	2	ウィーンでは経験していないが、ベルリンでは狂乱物価となっている 【考察】ベルリンが一時的な滞在であること、ダーレンを「あなた Sie」と呼んでいること (1923 年 2 月 23 日以降の書簡では「君 Du」)、ベルリンでハイパーインフレが起きたのは 1922 年から 23 年にかけてだったことから、1923 年 2 月 12 日の書簡と考えられる。
247	n.d. (1923 春)	バーデン・バイ・ウィーン	葉書	-	12 のエチュード [後の Op. 29] を Op. 29 と Op. 30 の 2 つの作品として出そうと考えている 【考察】1923 年 6 月 24 日の書簡で 2 つの作品とすることも考えたが、Op. 29 として出すことにしたとの記述があることから、この書簡の前に書かれたものと考えられる。
248	n.d. (1923)	n.d. (バーデン・バイ・ウィーン)	封書	2	ベルリンの写真家から届いた写真と葉書をダーレンに転送するにあたり、明細を連絡／Op. 29-4、9 の 2 曲は練習する際、とても興味を惹くと思う。Op. 29-9 はヴァイオリンのトレモロの音色のような新しいピアノの効果をもたらしている／夏の間は妻とバーデンに留まる 【考察】Op. 29 は 1923 年に作曲していることから、1923 年の書簡と判断した。
249	n.d. (1923/9)	ウィーン	葉書	-	9 月 13 日に Op. 16 をライプツィヒで演奏した／9 月 25 日に Op. 22 がベルリンで演奏される予定／Op. 29 を作曲中 【考察】住所がアルベルトガッセであり、1923 年の書簡と住所が一致していること、本文の内容から、1923 年 9 月 13 日から 25 日の間の書簡と判断した。
250	n.d./12/23 (1923/12/23)	n.d.	葉書	-	クリスマスと新年の挨拶／Op. 26 がラーター社から間もなく出版される。また、Op. 25 も印刷される。 【考察】Opp. 26、25 が 1924 年にラーター社から出版されたこと、1923/12/24 の書簡でクリスマスと新年の挨拶を述べていないことから、1923 年 12 月 23 日の書簡と考えられる。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要／考察
251	n.d. (1924/2/28)	ウィーン	葉書	-	体調が悪く誕生日をベッドで過ごしている。この分だと守護聖人の祝日(3月28日)もベッドで迎えることになりそうだ／Op. 29について印刷所で作業中 【考察】1923年3月10日の書簡で体調が悪いこととOp. 29をダーレンに献呈していることから、その直前の誕生日に書いたものと考えられる。
252	n.d. (1925/4)	ウィーン	葉書	-	ダーレンがOp. 32の写譜を夏に欲しいと書いてきたことを受けて、写譜屋の手配をしている／ライプツィヒのゲヴァントハウスでフルトヴェングラーがOp. 16を指揮し、センセーショナルな成功を取めた 【考察】辛うじて消印から1925年4月と判読できたこと、1925年4月21日の書簡とウィーン市内の住所が一致していることから、1925年4月の書簡と判断した。
253	n.d. (1925/夏)	ウィーン	葉書	-	11月にパリとマドリッドに行く／Op. 32のパート譜は既に完成している／ダーレンにOp. 32の感想を尋ねる／オランダでOp. 32をオランダで演奏してくれるのなら、パリの帰りに練習を聴ける／出版されたばかりのOp. 30を今日送る 【考察】1925年6月から10月の書簡と内容が関連していること、発信場所がウィーン市のハウプトシュトラッセであり、1925年9月21日の書簡と同様であることから、1925年夏の書簡だと考えられる。
254	n.d. (1925/9/12)	ウィーン	葉書	-	ウィーンへ戻ってきた／Op. 32を初演するつもりがあるかダーレンに確認。Op. 32のスコアはすでに完成しており、パート譜も間もなくできる。 【考察】1925年7月15日の書簡で旅行に出ることを通知したこと、9月21日の書簡でダーレンにOp. 32を弾いて欲しいと再度依頼していること、消印を拡大したところ「12 IX 25」と辛うじて判読できたため、1925年9月12日の書簡と判断した。
255	n.d. (1925)	n.d.	葉書	-	Op. 33が完成した／Op. 31を作曲中 【考察】1925年10月12日の書簡でOp. 33を印刷中と述べていることからその直前の書簡だと考えられることから1925年の書簡と判断した。
256	n.d. (1926)	ウィーン	葉書	-	Op. 31の楽譜をラーター社から送ると、自分から送るとどちらがいいか確認 【考察】Op. 31を作曲していたのが1925年であること、また、出版年が1926年であることから、1926年の書簡と判断した。
257	n.d. (1926/12)	ウィーン	葉書	-	新年(1927年)の挨拶／ダーレンからウィーンで2月にOp. 33を演奏できるか照会されたこと嬉しく思う。[妻エリザヴェータと連名で署名] 【考察】本文の内容が1927年に向けての挨拶だったため、1926年12月の書簡だと判断した。
258	n.d./7/20 (1928/7/20)	ウィーン	葉書	-	Op. 38は確かに完成しているがダーレンに送ることができない 【考察】1927年10月3日付の書簡でOp. 38は完成したと述べていること、また、この書簡はウィーン市のシェールブルンから発信しており、1927年10月から1928年9月までの書簡も同様であるため、1928年7月20日の書簡だと考えられる。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要／考察
259	192n.d./9/19 (1928/9/19)	ウィーン	葉書	-	Op. 36 をラジオで放送することをダーレンに連絡 【考察】1928年9月10日の書簡で9月23日に Op. 36 をラジオで放送すると記載していることから、1928年9月19日の書簡と判断した。
260	n.d. (1930年夏)	ザルツブルク	封書	3	Op. 38 の譜面をロスに渡したことへの礼／ダーレン宛に 〔指揮者の〕ヴァイスバッハに渡す譜面を送るよう、ライプツィヒのキストナー&ジーゲル社へ手紙を書いた 【考察】1930年6月27日の書簡で、ダーレンに Op. 38 の譜面と手紙を「ブダペスト・トリオ」のロス氏に渡ししてほしいと書いており、その直後の書簡だと考えられることから、1930年夏の書簡だと判断した。
261	n.d. (1935 から 1937 の夏)	バーデン・バイ・ ウィーン	葉書	-	ニリウスが、夏にリガとリバウで交響曲を指揮する予定のためパート譜を持っている／ヴィーツェル婦人から返事がない 【考察】内容が限られており日付の特定は困難だったが、避暑地のバーデンから発信しているため、1935年から1937年のいずれかの年の夏に書かれたものと考えられる。
262	n.d./n.d./7 (1936/8/7)	バーデン・バイ・ ウィーン	葉書	-	報せがないが病気なのか／オランダ語版の本は出版されたのか／第3巻はいつ出版されるのか 【考察】1936年7月から8月の書簡の内容と関連していること、また、ダーレンから返事がないとの記述があることから、1936年8月7日の書簡だと考えられる。
263	n.d. (1937/夏)	バーデン・バイ・ ウィーン	葉書	-	ドイツ語版のチャイコフスキ本が完成した 【考察】1936年10月31日の書簡で、原稿をレジデントイボーデ社が返還したこと、1937年夏はバーデンに滞在していたこと、また、1938年4月4日に出版されたとの記述があることから、1937年夏の書簡と判断した。
264	n.d. (1939/6)	ロガーシュカ・ス ラティーナ	葉書	-	滞在先からの近況報告 【考察】1939年6月3日の書簡で6月末からロガーシュカ・スラティーナで静養するとの記述があったことから、1939年6月の書簡と判断した。
265	n.d. (1946 または 1947)	ウィーン	封書	2	戦争でひどく痩せてしまった。その上、今や69歳になった／ウィーンの出版社に Opp. 63, 65 を売却した。しかし、自分が一番好きな Op. 60 と、Opp. 61, 64 は、戦争のせいで3年前には出版されていたはずが、未出版のまま 【考察】本文に年齢の記述があることから、1946年または47年の書簡と判断した。
266	n.d. (1946 または 1947)	n.d. (ウィーン)	封書	1	〔2枚目以降は未発見〕 ヒルバーサム [i.e. オランダのラジオ局] とコンサートの契約ができれば、ウィーン のオランダ領事館でビザの申請をする／2月で70歳になる 【考察】本文で2月に70歳になると述べていることから、1946年または47年の書簡と判断した。
267	n.d./n.d./14	ウィーン	葉書	-	事務連絡 【考察】内容が事務連絡のため、日付の特定は困難だった。
268	n.d.	ウィーン	葉書	-	時候の挨拶 【考察】内容が限られており、日付の特定は困難だった。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要／考察
269	n.d.	ウィーン	葉書	-	時候の挨拶 【考察】内容が限られており、日付の特定は困難だった。
270	n.d.	ウィーン	葉書	-	[ピアニストの] モーリス・ローゼンタールがアメリカで新しいピアノ協奏曲を公式に演奏するため楽譜のコピーを買い取ったことから、手許に余部がない／7月15日までウィーンにいて、9月に戻る 【考察】内容が限られており、日付の特定は困難だった。
271	n.d.	n.d.	封書	3	フランク・シュミットのヴァイオリン、作曲者指揮により、12月15日にプラハで Op. 22 を演奏した／リュブカ・コレッサがフランクフルト、ライプツィヒとベルリンで Op. 16 を演奏／デ・コンのピアノ、作曲者指揮によりウィーンで3回 Op. 16 を演奏した 【考察】本文の内容からは日付の特定は困難だった。

## 第2節 ヘレーネ・マルホランド Hélène Mulholland (1912-2000)

マルホランドはファン・ダーレンの弟子のピアニストで、晩年のボルトキエヴィチと親交があった。NMIには下表のとおり、1946年から1950年にかけてボルトキエヴィチがマルホランドに宛てて送った書簡31通が、ボルトキエヴィチのアーカイブ（NMI 368）に保管されている。手紙本文の内容は、同時期にダーレンに送付したものと似たものが多い。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1946/6/3	ウィーン	封書	2	窮状の訴え	HGM-368/c-01
2	1946/7/5	ウィーン	封書	2	生活の困窮と妻の病状	HGM-368/c-02
3	1946/8/1	ウィーン	封書	2	オランダからの救援物資の安全な送付方法	HGM-368/c-03
4	1946/8/24	ウィーン	封書	2	救援物資への礼	HGM-368/c-04
5	1946/10/11	ウィーン	葉書	-	近況報告	HGM-368/c-05
6	1946/11/18	ウィーン	封書	2	Op. 66 の献呈と自筆譜送付の報告	HGM-368/c-06
7	1946/12/19	ウィーン	葉書	-	3つ目の救援物資への礼	HGM-368/c-07
8	1947/1/20	ウィーン	封書	2	近況報告	HGM-368/c-09
9	1947/2/19	ウィーン	封書	2	近況報告	HGM-368/c-10
10	n. d. <sup>29</sup>	n. d.	葉書	-	【フランス語】復活祭を祝うカード[夫妻による署名]。ボルトキエヴィチ協会創設について。	HGM-368/c-08

<sup>29</sup> ボルトキエヴィチ協会創設についての記述があること、1947年の復活祭が4月6日だったことから、1947年4月初頭の書簡と判断した。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
11	1947/4/n.d.	ウィーン	封書	3	Opp. 62、63、65、66 について／ボルトキエヴィチ協会設立の報告 [設立集会の案内状も同封]	HGM-368/c-11
12	1947/5/13	ウィーン	葉書	-	交響曲第 2 番のラジオ放送／Op. 65 について	HGM-368/c-12
13	1947/8/21	ウィーン	封書	2	生活の厳しさと近況の報告	HGM-368/c-13
14	1947/9/27	ウィーン	封書	5	ボルトキエヴィチ協会の会員証の送付／Opp. 16、26、28、32、62、63 について／妻エリザヴェータからの挨拶	HGM-368/c-14
15	1947/11/19	ウィーン	封書	2	歌手のアントン・デルモタによる楽友協会での演奏会 <sup>30</sup> の紹介と、オランダでの自作の演奏会予定について	HGM-368/c-15
16	1947/11/24	ウィーン	封書	1	ボルトキエヴィチ協会開催案内	HGM-368/c-16
17	1947/12/22	ウィーン	封書	4	12 月 15 日の自作曲の演奏会の報告 [プログラム同封] / 新作の楽譜印刷の進捗について	HGM-368/c-17
18	1948/1/15	ウィーン	封書	4	ナチスと戦争による影響で作品の普及が進まなかったことへの嘆き	HGM-368/c-18
19	1948/4/30	ウィーン	書類	3	ボルトキエヴィチ協会決算報告、会費納付書	HGM-368/c-19
20	1948/7/19	バート・クラインキルヒハイム	葉書	-	滞在先からの近況報告	HGM-368/c-20
21	1948/7/20	バート・クラインキルヒハイム	葉書	-	滞在先からの近況報告	HGM-368/c-21
22	1948/9/23	ウィーン	葉書	-	定年退職後の経済的苦境への愚痴	HGM-368/c-22
23	1948/11/11	ウィーン	書類	4	ボルトキエヴィチ協会会費納入のお知らせ / 11 月 23 日楽友協会大ホールでのコンサート <sup>31</sup> の招待状	HGM-368/c-23
24	1948/12/16	ウィーン	葉書	-	クリスマスカード [夫妻による署名]	HGM-368/c-24
25	1948/12/29	ウィーン	葉書	-	新年の挨拶 [夫妻による署名]	HGM-368/c-25
26	1949/7/30	グギング	葉書	-	滞在先からの近況報告	HGM-368/c-26
27	1949/9/1	ウィーン	封書	3	マルホランドの Op. 66 の演奏についての講評 / ボルトキエヴィチ協会の活動概要	HGM-368/c-27
28	1949/12/14	ウィーン	封書	2	ボルトキエヴィチ協会の発展状況	HGM-368/c-28
29	1950/6/9	ウィーン	葉書	-	妻が双極性障害のため病院で受診したこと報告 / 自作を演奏会で取り上げるよう依頼	HGM-368/c-29

<sup>30</sup> 1947 年 12 月 15 日 (月) 19 時から、楽友協会ブラームスホールでのボルトキエヴィチ作品のみを演奏する「作曲家の夕べ」。

<sup>31</sup> マルホランドに献呈した Op. 66 の初演。



	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
30	1950/12/22	ウィーン	葉書	-	クリスマスカード／Op. 50 について	HGM-368/c-30
31	1950/12/27	ツェル・アム・ゼー	葉書	-	生活の厳しさ、オランダからライブツィヒへの楽譜注文が再開したことの報告	HGM-368/c-31

### 第3節 その他

ボルトキエヴィチは1930年代以降、経済的に困窮していた。そのため、親友のファン・ダーレンに度々借財を依頼しており、その際の借用証が保管されている。またその他に、オペラ《アクロバーテン》のラジオ初演の案内やマルホランドに宛てた郵便物送付状<sup>32</sup>が保管されている。

	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	書類	1	ハーグの出版社 J. フィリップ・クルーゼマンへ宛てた、『ロシアの音楽と作曲家』の出版に対するお祝い。1929年9月14日付のダーレンへの手紙に同封（1929年9月14日）	MNHGM 040
2	書類	1	ボルトキエヴィチからファン・ダーレンに宛てた255ライヒス・マルクの借用証（1930年2月7日）	NMI-368/doc 40/399
3	書類	1	ボルトキエヴィチからファン・ダーレンに宛てた、オペラ《アクロバーテン》のラジオ初演の案内（1937年2月3日）	NMI-368/doc 40/399
4	書類	2	マルホランドに宛てた郵便物送付状（オランダ赤十字社経由）	NMI-368
5	封書	1	妻エリザヴェータからダーレンに宛てたセルゲイ・ボルトキエヴィチの死亡通知（1952年11月3日）	MNHGM 040

## 第2章 ウィーン市立図書館

ウィーン市立図書館には、1947年にボルトキエヴィチ協会を設立したハンス・アंकヴィッツ＝クレーフエン<sup>33</sup> Hans Ankwicz-Kleehoven（1883-1962）に宛てて、ボルトキエヴィチが1940年から1952年に送った書簡12通と、ボルトキエヴィチの妻エリザヴェータが記した書簡2通が下表のとおり所蔵されている。

<sup>32</sup> 第2次大戦直後の混乱期において、ウィーンとオランダの間で手紙や物資をやりとりする際には、オランダ赤十字社を経由すると上手くいくことがあり、ボルトキエヴィチは度々利用していた〔Bortkiewicz-M 1946/6/3〕。

<sup>33</sup> クレーフエンは1883年にウィーンで生まれ、ウィーン大学で学んだ後、研究員としてキャリアを積み、オーストリア帝立産業美術博物館 Österreichischen Museums für Kunst und Industrie（現オーストリア応用美術博物館 Österreichisches Museum für angewandte Kunst）の図書館長となった人物である。（著者不明“Hans Ankwicz-Kleehoven.”（*Wien Geschichte Wiki* HP内）

[https://www.wien.gv.at/wiki/index.php?title=Hans\\_Ankwicz-Kleehoven](https://www.wien.gv.at/wiki/index.php?title=Hans_Ankwicz-Kleehoven)（2016/12/1最終閲覧））

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1940/7/20	グルントルゼー	葉書	-	妻エリザヴェータから花のお礼	I.N.212.352
2	1940/8/30	イシュル	葉書	-	ウィーンへ戻ることの予告	I.N.162.605
3	1942/8/25	ウィーン	葉書	-	近況報告	I.N.159.302
4	1942/9/3	ゼメリンク	葉書	-	ゼメリンクは天気も良く空気も美味しい。部屋に程度のいいアップライトピアノもあり、随分回復した	I.N.162.606
5	1945/8/9	ウィーン	封書	2	クレーホーフェンの母親逝去へのお悔やみ/生活の困窮	I.N.159.293
6	1945/10/5	ウィーン	葉書	-	自身を批判する雑誌記事への反論	I.N.159.298
7	1945/12/8	ウィーン	葉書	-	リンツ駐在の米兵が自身の曲を気に入ったことの報告/米国での認知度向上を期待	I.N.159.301
8	1947/12/31	ウィーン	葉書	-	新年の挨拶	I.N.159.299
9	1948/7/10	バート・クラインキルヒハイム	葉書	-	滞在先からの近況報告	I.N.159.297
10	1948/7/22	バート・クラインキルヒハイム	封書	4	滞在先からの近況報告と 1941 年の滞在時の思い出話	I.N.159.296
11	1949/8/20	ウィーン	封書	3	近況報告	I.N.159.294
12	1950/8/19	ウィーン	封書	3	現実が厳しく大曲を書けないとの愚痴	I.N.159.295
13	1952/7/22	フィラッハ	葉書	-	滞在先からの近況報告	I.N.159.300
14	1952/11	ウィーン	カード	1	妻エリザヴェータからボルトキエヴィチ協会に宛てた会葬御礼	I.N.159.310

また、書簡以外にボルトキエヴィチ協会関連の書類として、同協会設立時の登記書類や、設立初期のコンサートのプログラム、ボルトキエヴィチ自身のスピーチ原稿や写真等の資料が下表のとおり所蔵されている。

	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	原稿	1	[1950年前後] ボルトキエヴィチ協会でのスピーチ <sup>34</sup>	I.N.159.303
2	新聞記事	1	1952年3月1日 75歳の誕生日を祝うコンサートの批評	52
3	書類	1	代表作の出版状況と演奏歴	I.N.161.782
4	写真	1	ボルトキエヴィチの坐像	I.N.238.677
5	写真	1	ボルトキエヴィチの立像	I.N.238.678

<sup>34</sup> 「15年前に作曲した交響曲第1番」との記述があることから、1934年から15年後ということで、1950年前後の原稿だと考えられる。

	形態	頁数	概要	所蔵先コード
6	写真	2	ボルトキエヴィチ夫妻と友人	I.N.238.682
7	原稿	1	1942年11月29日楽友協会でのコンサートのプログラム [サイン入り]	I.N.159.305
8	原稿	1	1950年2月6日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.6
9	原稿	1	1950年4月3日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.7
10	原稿	1	1950年10月2日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.4
11	原稿	2	1950年11月6日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム／Op. 47-4、Op. 62-1の歌詞	I.N.159.304
12	原稿	1	1951年1月8日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.3
13	原稿	1	1951年3月5日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.2
14	原稿	1	1951年10月1日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.1
15	原稿	1	1951年12月3日ボルトキエヴィチ協会でのコンサートのプログラム	I.N.159.305.5
16	原稿	1	クレーホーフエンに宛てたメモ[コンサートでの歌曲の曲順指示]	I.N.159.305.8

その他、クレーホーフエンがボルトキエヴィチの存命中および死後に同協会の活動の際に作成した、協会設立時の登記書類やスピーチ原稿が下表のとおり所蔵されている。

	年/月/日	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1946/11/27	書類	1	ウィーン市当局へのボルトキエヴィチ協会設立許可願	I.N.159.308
2	1947/3/1	原稿	2	ボルトキエヴィチ協会での、ボルトキエヴィチ70歳誕生祝いのスピーチ	I.N.159.309
3	1952/11/4	原稿	5	クレーホーフエンによるボルトキエヴィチの墓前でのスピーチ	I.N.159.307
4	1952/11/10	原稿	6	ボルトキエヴィチ協会でのスピーチ	I.N.159.306

### 第3章 オーストリア国立図書館

オーストリア国立図書館にはボルトキエヴィチから、ヨーゼフ・マルクス Joseph Marx に宛てた書簡5通と、カール＝フランツ・ミュラー Karl-Franz Müller に宛てた書簡2通および妻エリザヴェータからの書簡1通と、エミール・ペチュニヒ Emil Petschnig に宛てた書簡1通などが所蔵されている。

## 第1節 ヨーゼフ・マルクス Joseph Marx (1882-1964)

マルクスはボルトキエヴィチと同時代にオーストリアで活動した後期ロマン主義の作曲家かつ、保守的な音楽評論家である<sup>35</sup>。1924年から47年にかけてボルトキエヴィチが送った書簡5通が下表のとおり保管されている。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1924/5/17	ウィーン	封書	1	Op. 29 を出版。マルクスへコピーを進呈。	806/44-1
2	1929/3/22	ウィーン	封書	2	経済状況が芳しくないことの訴え。ピアノ教授職 <sup>36</sup> への推薦をマルクスに依頼	806/44-2
3	1934/9/21	バーデン・バイ・ウィーン	封書	2	ヴァイオリニストのヤロ・シュミートと偶然出会い、イスタンブールの音楽院でピアノとヴァイオリンの先生を探していると聞いた。自分をピアノ教師として推薦してもらうことは可能か	806/44-3
4	1935/3/28	ウィーン	封書	1	交響曲第1番の初演の告知	806/44-4
5	1947/3/20	ウィーン	封書	1	マルクスによる好意的な批評への礼	806/44-6

## 第2節 カール＝フランツ・ミュラー Karl-Franz Müller (1922-1978)

ミュラーはウィーンで生まれ、ウィーン国立音楽大学にて学んだ作曲家で、ヨーゼフ・マルクスの個人指導を受けた<sup>37</sup>。1952年にボルトキエヴィチが送った書簡2通と妻エリザヴェータからの書簡1通、そしてミュラーが作成したタイプ打ちの作品目録が、ミュラーの遺品の一部として寄贈され、下表のとおり保管されている。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1952/10/2	ウィーン	葉書	-	電話番号の連絡	F39. Mueller. 14
2	1952/10/14	ウィーン	葉書	-	事務連絡	F39. Mueller. 14
3	1952/11/1	ウィーン	封書	1	妻エリザヴェータからの死亡通知	F39. Mueller. 14
4	n. d.	ウィーン	書類	4	作品目録 [タイプ打ち]	F39. Mueller. 14

<sup>35</sup> Carner, Mosco/Wiesmann, Sigrid, n.d. “Marx, Joseph.” (Oxford Music Online 内)  
<http://www.oxfordmusiconline.com/subscriber/article/grove/music/17956?q=Joseph+Marx&search=quick&pos=1&start=1-firsthit> (2016/12/1 最終閲覧)

<sup>36</sup> マルクスがウィーン大学とウィーン音楽アカデミーで教鞭をとっていたことから、これらの機関への推薦を依頼したと推測される。

<sup>37</sup> 著者不明 n.d. “GERMAN & AUSTRIAN SYMPHONIES From The 19th Century To The Present.” (MusicWeb International HP 内)  
[http://www.musicweb-international.com/Ntl\\_discogs/German\\_Austrian\\_symphonies/German\\_Austrian\\_Symphonies2.htm-kmüller](http://www.musicweb-international.com/Ntl_discogs/German_Austrian_symphonies/German_Austrian_Symphonies2.htm-kmüller) (2016/12/1 最終閲覧)

### 第3節 エミール・ペチュニヒ Emil Petschnig (1877-1939)

ペチュニヒはウィーン音楽院で学んだ作曲家で、オペラ 12 曲などを作曲した<sup>38</sup>。彼に送られた書簡は下表のとおり日付不明の 1 通のみである。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	n. d.	ウィーン	封書	1	コンサート来場への礼	F77. Petschnig. 28

### 第4節 その他

上記に加え、オーストリア国立図書館には、オーストリア連邦教育省 Bundesministerium Für Unterricht の依頼に応え、ボルトキエヴィチが自分自身の作曲家としての業績を一覧にして送付した文書が保管されている。また、オーストリア・インスティテュート Österreich-Institut の音楽家名鑑作成に当たっての依頼に応え、ボルトキエヴィチが送付した質問状への回答と作品目録のドラフトも保管されている。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1936/ n.d./ n.d.	バーデン・バイ・ウィーン	書類	5	略歴、業績[Litolff 社での出版一覧]等	806/44-5
2	1948/11/ n.d.	ウィーン	書類	7	作曲家名鑑作成依頼に対する回答と、作品目録のドラフト	673/7-1

## 第4章 ザクセン州立アルヒーフ

ザクセン州立アルヒーフの資料は、元はアントン・ベンジャミン社 Anton Benjamin の所有だったが、第 2 次大戦中のナチスによるアリア化政策によりハンス・C・シコルスキ社 Hans C. Sikorski KG. に所有権が強制的に移転した<sup>39</sup>。戦後、東ドイツ政府が元の所有者への権利回復を凍結し、東西ドイツ統一後の 1993 年から 20 年間の交渉を経て、最終的にザクセン州に寄贈され、2013 年に一般公開されたことから閲覧可能となった (Kalkman/Trapman 2015/ 32-33) <sup>40</sup>。

<sup>38</sup> 著者不明 n.d. “Emil Petschnig.” (Wien Geschichte Wiki HP 内)

[https://www.wien.gv.at/wiki/index.php/Emil\\_Petschnig](https://www.wien.gv.at/wiki/index.php/Emil_Petschnig) (2016/12/1 最終閲覧)

<sup>39</sup> ベンジャミン社は、ラーター社 (1917 年) とジムロック社 (1929 年) を買収しており、両社も共にシコルスキ社の傘下となった。

<sup>40</sup> Kalkman, Wouter/Trapman, Klaas 2015 “Sergei Bortkiewicz, De teruggevonden pianowerken.” *Piano Bulletin* 2015/3, 21-37.

ザクセン州立アルヒーフには、ボルトキエヴィチが、1906年から1945年にかけてブライトコプフ&ヘルテル社 Breitkopf & Härtel やペータース社 Peters、ジムロック社 Simrock、ベンジャミン社 Benjamin、シコルスキ社 Sikorski に宛てた書簡 10 通が下表のとおり所蔵されている。ボルトキエヴィチが出版社に宛てた封書や葉書について宛先を【社名】と記載する。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1906/5/10	ベルリン	封書	2	【ブライトコプフ&ヘルテル社】 ピアノ協奏曲 (Op. 1) のベルリン初演 (1906/4/2) に関する批評の送付/同作の出版について打診	21081-5184
2	1907/2/9	ベルリン	封書	2	【ペータース社】 ベートーヴェンの変奏曲を、弦楽三重奏に編曲し出版することを提案	21070-293
3	1907/4/2	ベルリン	封書	3	【ペータース社】 グリーグの歌曲《女奴隷の歌 Odaliskens Synger EG 131》の校訂譜の出版を打診	21070-293
4	1913/12/5	ベルリン	葉書	-	【ペータース社】 8つの小品 [i.e. 《嘆きと慰め Op. 17》] <sup>41</sup> の出版を打診	21070-5265
5	1939/5/25	ウィーン	封書	1	【ベンジャミン社】 《陽気な組曲》 [i.e. 《オーケストラのための陽気な組曲 Op. 57》] をピアノ・ソロ版に編曲し、名前を《舞曲組曲》に変更。自筆譜の清書を同封	21064-066
6	1941/2/19	ウィーン	封書	1	【ジムロック社】 《ユーゴスラヴィア組曲》 [i.e. Op. 58] の1回目の校正について	21064-534
7	1941/3/11	ウィーン	葉書	-	【ジムロック社】 《ユーゴスラヴィア組曲》の献呈の通知	21064-534
8	1941/4/7	ウィーン	封書	1	【シコルスキ社】 1941年4月6日のドイツによるユーゴスラヴィア侵攻を踏まえ、《ユーゴスラヴィア組曲》の出版延期、または、作品名と各小品名の変更を打診	21064-534
9	1944/8/17	ウィーン	封書	1	【ジムロック社】 《ピアノのための3つのマズルカ Op. 64》の自筆譜の清書を送付。併せて、送付済みの Opp. 60、61 のコミッションの請求	21064-531
10	1945/3/2	ウィーン	封書	1	【ジムロック社】 Opp. 60、61、64 の献呈の通知。併せて、自宅が市街戦に巻き込まれ破壊されたとの惨状を記載	21064-168

<sup>41</sup> この作品は、結果的には1914年にキストナー&ジーゲル社から出版された。

また、ザクセン州立アルヒーフには出版契約書や、ボルトキエヴィチ夫妻の死亡証明書などの書類も所蔵されている。

	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	書類	1	1944年12月19日付 Opp. 60、61、64 のコミッションの最終提示。ボルトキエヴィチの12月5日付のコミッションについての要請に対する回答。出版時期が確定不可のため、さらなる値下げを最終提案として実施	21064-851
2	書類	5	1944年12月27日付 Opp. 60、61、64 の出版契約書	21064-851
3	書類	2	1952年10月30日付セルゲイ・ボルトキエヴィチの死亡届	n. d.
4	書類	1	1960年3月10日付エリザヴェータ・ボルトキエヴィチの死亡診断書	n. d.
5	書類	4	1960年4月6日付エリザヴェータ・ボルトキエヴィチの死亡届	n. d.

興味深いことに、1941年以降、作品名などの変更か出版の延期を提案せざるを得なくなったことや、初版譜の出版の目処が立たず、コミッションについて出版社と数ヶ月にわたり交渉を継続する中で、値下げを迫られたことが明らかとなった。戦争がボルトキエヴィチの創作活動に甚大な悪影響を与えていたのである。

## 第5章 ケルン大学図書館

ケルン大学図書館には1通の書簡が所蔵されている。宛先はファニー・ルース Funny Loos となっているが、この人物については詳細不明である。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1948/7/19	クラインキルヒハイム	葉書	-	滞在先からの近況報告	Au 1027

## 第6章 フライシャー・コレクション

フライシャー・コレクションの資料は、フィラデルフィアの実業家エドウィン・フライシャー Edwin Fleisher が1929年5月にフィラデルフィア・フリー・ライブラリーに寄贈したことに端を発する。フライシャーは、1909年に自身が設立したシンフォニー・クラブにおいて、若者にオーケストラ作品を演奏する機会を提供するため、20世紀前半の米国では入手が困難だった欧州の作曲家の作品を収集した (Galván 2008: 514-526)<sup>42</sup>。同コレクションのキュレーターであるフランクリン・プライス Franklin Price は、1940年にボルトキ

<sup>42</sup> Galván, Gary 2008 “The ABCs of the WPA Music Copying Project and the Fleisher Collection.” *American Music* 26/4, 514-538.

エヴィチにコンタクトし、オーケストラ作品をコレクションに加えた。また、フライシャー・コレクションでは、1934年から未出版の作品を写譜するプロジェクトを開始していたことから、1940年にボルトキエヴィチに自筆譜の送付を依頼したが、第2次大戦開戦に伴い郵便事情が悪化しており実現しなかった。漸く1950年3月に、交響曲第1番と第2番の自筆譜がコレクションに加えられたのである<sup>43</sup>。

フライシャー・コレクションには、キュレーターのプライス氏に宛ててボルトキエヴィチが送付した、以下の2通の書簡が所蔵されている。

	年/月/日	発信地	形態	頁数	概要	所蔵先コード
1	1940/11/11	ウィーン	封書	1	【英語】自身のオーケストラ作品とコンチェルトの作品一覧の連絡	457
2	1946/05/11	ウィーン	葉書	-	【英語】〔フライシャー・コレクションのキュレーターのプライス氏から〕戦前に依頼されていたOp. 52とOp. 55の自筆譜を、自分がアメリカに届けようかと提案	n. d.

以上のように、ボルトキエヴィチの自伝や書簡などの自筆資料は、NMIやウィーン市立図書館をはじめとして、計6箇所にもわたり点在していることが分かる。ボルトキエヴィチが没後、忘れられた作曲家の一群に埋没したことを思えば、彼の自筆資料は予想以上に豊富に残され、私たちにとりアプローチ可能であることが明らかとなった。

<sup>43</sup> Kalkman, Wouter n.d. “Sergei Bortkiewicz: his life and music.” <http://sergeibortkiewicz.com> (2016/12/1 最終閲覧)